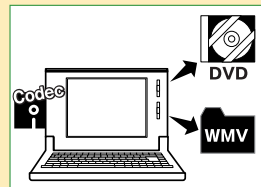
Ubuntuで動画を楽しむ DVD&動画

Ubuntuは動画関連のソフトがかなり充実している。ここに挙げたソフトを使えば、いつでもどこでも動画が楽しめるぞ!

コーデック追加でDVDも動画も楽しめる!!

UbuntuでDVDや動画を再生するのに欠かせないのが「コーデック」と呼ばれるデータの変換装置だ。これをインストールすることで、多くの動画を見ることができるようになるぞ。

01 DVD&Movie DVDや動画を楽しむためには まずはコーデックをインストール Codec Install

Ubuntuでは DVDやWMV形式のファイルが再生できない。特に商用DVDは暗号化されているので再生が難しい。まず暗号化解除のツール「libdvdcss2」をインストールしよう。なお、これを実行するためには、31ページで紹介している「medibuntu」というリポジトリをインストールする必要があるので確認しておこう。さらに、WMV形式のファイルを再生するために、「w32codec」というコーデックをインストール。これで様々な動画が再生できるようになるのだ。

01「端末」を起動

02 コマンド入力

```
sudo apt-get install libdvdcss2 w32codecs
```

「apt-get install libdvdcss2 w32codecs」を入力。これで両方ともインストールされる。

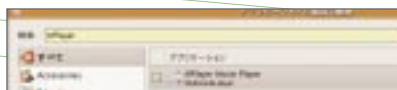
03 DVDを再生

これだけでDVDの再生とWMVの再生が可能になる。

02 DVD&Movie Windows版もあるがLinux版が本家 ISOイメージの直接再生が可能 Media Player

MPlayer
作者名：MPlayer team
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

Windowsで使っている人も多い「MPlayer」はLinuxが本家だ。DVDの再生はもちろんのこと、ISOイメージの直接再生といったことも可能なのでオススメだ。

インストール

インストールは「追加と削除」から行う。「MPlayer」で検索しよう。起動は「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」から。

警告画面
上記のダイアログが出るが、「有効」を押してインストール。

使い方

起動すると下の二つの画面が出現。操作は基本的に右クリックメニューから行う。

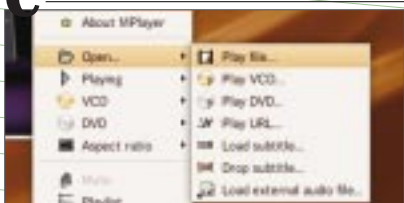
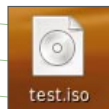
A MPlayerのウィンドウ構成

MPlayerの起動画面。動画の再生ウインドウと操作ウインドウの二つのウインドウで構成される。

B DVDの再生

DVDもISOもこれだけで再生

DVDの再生はメニューから、「DVD」→「Open disc」で再生。

C ISOイメージや動画ファイルの再生

ISOイメージを開く場合には 右クリックメニューの「Open」→「Play file」からISOイメージを選択しよう。

03 DVD&Movie Codec内蔵でさまざまな 形式のファイルが再生可能 Media Player

VLC Media Player
作者名：VideoLAN Project
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

「VLC」はあらかじめコーデックが組み込まれているプレイヤーだ。そのためいちいちコーデックのインストールや設定をせずともMP3や動画ファイルの再生が可能だ。またFLVファイルの再生もできるぞ。

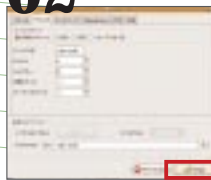
インストール

インストールは「追加と削除」から行なう。「VLC」で検索。起動は「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」から。

使い方

01 再生するDVDを選択

DVDの再生はメニューの「ファイル」→「ディスクを開く」をクリック。

02 再生DVDのチェック

ダイアログが現れるので「OK」をそのまま押して再生を開始しよう。チャプターを指定して途中からの再生も可能だ。

1本でリッピングとエンコードを同時に実行可能 サイズ指定でHDDの空き領域が少なくても安心 DVD rip

dvd::rip
作者名：Thomas Ostreich
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

DVDを動画ファイルなどへ手軽にエンコードしたいという人向けのソフトが「dvd::rip」だ。簡単な設定だけでDVDから動画ファイルを抽出できるぞ。字幕などの設定も可能だ。

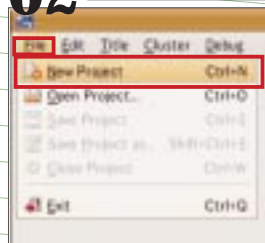
インストール

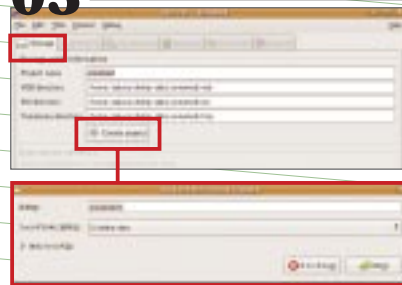
インストールは「追加と削除」から行なう。起動は「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」→「dvd::rip」から。

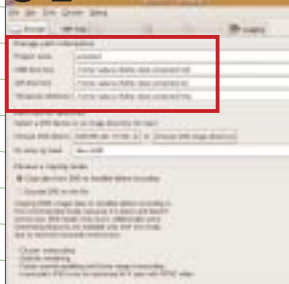
使い方

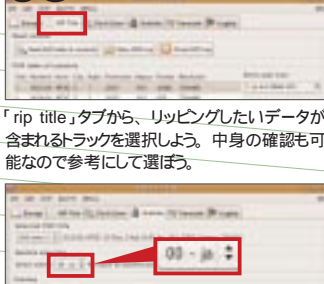
01 設定画面

DVDをパソコンにセットして「dvd::rip」を起動すると初期設定を行う画面がでる。そのまま「OK」で問題ない。

02 プロジェクトを作成

まずはウインドウのメニューから「File」→「newproject」を選択。

03 保存先を指定

タブの「Strage」を選択したら、画面の「Create Project」をクリック。Projectの名称や保存先を指定しよう。

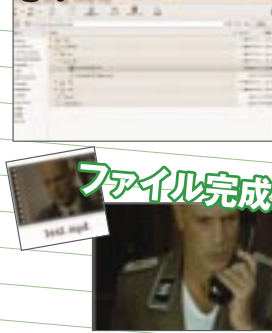
04 プロジェクト作成完了

入力した設定項目がウインドウ下部に黒字で表示される。

05 リップするデータを選択

「rip title」タブから、リッピングしたいデータが含まれるトラックを選択しよう。中身の確認も可能なので参考にして選ぼう。

「Subtitle selection」で字幕の種類を選択する。「ja」となっているものが日本語字幕だ。

06 詳細設定

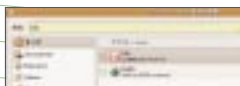
「Transcode」タブに移動。ここではエンコードや音声形式、ビットレートや変換後のサイズなども指定できる。設定が終了したら右下の「Trascode」ボタンをクリックしよう。

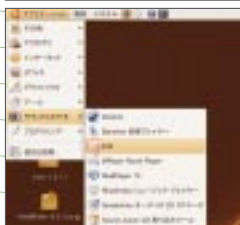
07 エンコード完了

CD/DVDをイメージファイルから作成 不要データをDVDに焼けばHDD容量の節約に!! DVD Burner

K3b
作者名：Sebastian Trug，Christian Kvasny
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

Ubuntuでは CD/DVDの作成ツール「K3b」が使えるぞ。音楽CDの作成やデータCDの作成などもできてオススメだ。ここでは、ISOイメージのDVDを焼く方法を紹介するぞ。

インストール＆起動

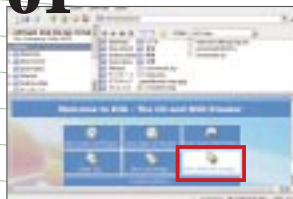
インストール

ソフトの追加は「追加と削除」から行うことができるぞ。

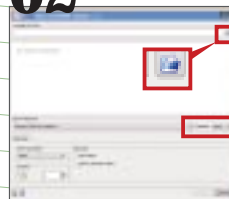
起動

「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」→「K3b」から起動しよう。

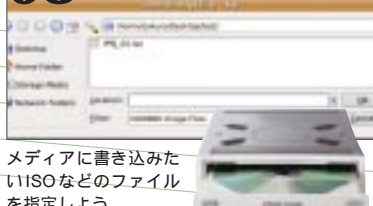
ISOイメージとは

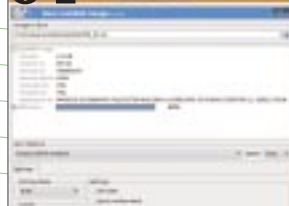
DVDなどのディスクを丸ごと一つのファイルにしてあるデータが「ISOイメージ」だ。多くのソフトに対応しており、このデータひとつでソフトが起動できる。

使い方

01 設定画面

画面下にあるアイコン群の中から「BurnDVD ISOImage」を選択。

02 ダイアログからISO読み込みへ

画面右上にあるアイコンをクリックしてISOイメージを読みこませる。画面下からはメディアへの書き込み速度の設定が可能だ。

03 設定画面

メディアに書き込みたいISOなどのファイルを指定しよう。

04 ダイアログからISO読み込みへ

「Start」をクリックすると選択したデータのメディアへの書き込みが開始される。あとはじっと待てばいいだけだ。

06 撮りためた動画をiPod/PSP用に変換 どこでも持ち運んで楽しめる!! Movie Encoder

ffmpeg
作者名：FFmpeg project
インストール方法：GNOME端末から入力

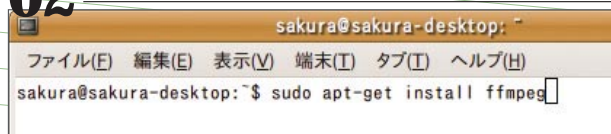
普段撮りためた動画や映画をiPodやPSPなどで持ち運んで見たい! という人のためのツールが「ffmpeg」だ。これはコマンドラインツールで多少敷居は高いのだが、一度操作に慣れてしまえば、非常に細かい設定が可能になるオススメツールだ。Windows版もあるので一度覚えておけばWindowsでも同じ設定で使えるぞ。さらに詳しいオプションなどはマニュアルなどを参照して欲しい。

インストール

01 「端末」を起動

ffmpegのインストールにはコマンド操作が必要になる。「アプリケーション」→「アクセサリ」→「端末」を選択しよう。

02 コマンドを入力してインストール

```
sakura@sakura-desktop:~$ sudo apt-get install ffmpeg
```

端末に「sudo apt-get install ffmpeg」と入力すればインストールできる。

sudo apt-get install ffmpeg

iPod用動画作成

ここではiPod用動画の作成の方法を解説するぞ。端末から2回コマンドを実行すると動画が完成する。長いコマンドなので落ち着いて入力しよう。赤字の部分はファイル名により変わるので注意。また、誌面の関係で改行が入力されているが一行で入力して欲しい。

01 階層を移動

「cd "動画ファイルがあるディレクトリ"」と入力し、動画のあるディレクトリに移動。この場合はデスクトップにファイルを置いている。

02 ffmpegで動画を変換

下記のコマンドを実行すると動画が完成するぞ。長いコマンドなので間違わずに入力しよう。下のコマンド表は誌面の関係で改行されているが一行で入力しよう。

03 エンコードが完了

ファイルが完成したら早速iPodに送って見てみよう。

```
ffmpeg -y -i "変換したい動画のファイル名" -title "hogehoge" -timestamp "20XX-YY-ZZ XX:YY:ZZ" -f mp4 -vcodec mpeg4 -b 768k -bufsize 2500k -maxrate 2500k -g 250 -ac 2 -ab 256k "出力するファイル名.mp4"
```

PSP用動画作成

今度はPSP用のコマンドだ。これも同時に実行すればPSP用の動画が完成するぞ。こちらもやはり一行で入力しよう。

```
ffmpeg -i "変換したい動画のファイル名" -f psp -r 29.97 -s 320x240 -b 1500 -muxrate 768 -ar 24000 -ab 64 "出力するファイル名.mp4"
```

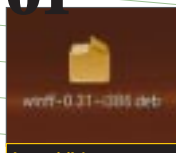
どこでも動画が楽しめる!!

07 コマンドが苦手でも 簡単に動画ファイルのエンコードが可能!! Movie Encohder

WinFF
作者名：BiggMatt Software
インストール方法：debパッケージから

「ffmpegはちょっと難しい!」という方にオススメなのが「WinFF」だ。簡単な設定で動画を作成することができる。ただし、プリセット以外の物を作る場合にはffmpegと同じように細かく指定する必要があるので注意が必要だ。

インストール

01 サイトからダウンロード

まずは公式サイトからdebファイルをダウンロードして入手しよう。

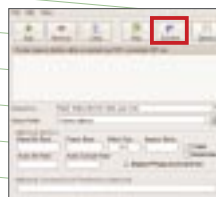
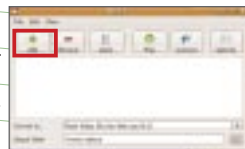
http://biggmatt.com/winff

02 インストール

ファイルをダブルクリックするとインストーラが起動。「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」に追加される。

iPod用動画作成

01 ファイルを追加

「add」をクリックして変換したい動画ファイルをウインドウ内に追加しよう。

ボックスで出力する形式と出力先を指定。「Options」をクリックすると詳細も設定できる。「Convert」をクリックでエンコード開始。

02 変換&完了

エンコード後の動画ファイルは指定しておいたフォルダに出力されるぞ。

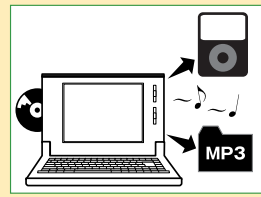
iPod用に変換!!

音楽のすべてがここに

MP3&音楽 Music

UbuntuでもMP3といった音楽再生ツールは充実している。しかも、そのほとんどがiPodに対応しているぞ!

MP3作成からiPod管理までUbuntuは万能音楽マシンだ

Ubuntuではmp3の再生はもちろんoggなどのWindowsでは再生が面倒なファイルでも簡単に再生できるようになっている。もちろんiPodのデータ管理も簡単に行えるぞ。

01 MP3&Music iPodの管理機能を備えた高機能メディアプレイヤー Music Player

Amarok
作者名:Mark The Amarok Team
インストール方法:アプリケーションの追加と削除から

「Amarok」は非常に多機能で、iPodの管理まで可能なプレイヤーだ。音楽の管理などの機能が充実していて、歌詞の表示機能やアーティスト情報の表示といった便利な機能が満載。ただし、MP3の再生方法が特殊で、ファイルを一度再生するとインストーラが起動してMP3の再生が可能になるという点に注意しよう。

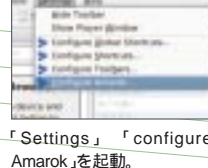
インストール

「アプリケーションの追加と削除」からインストールすると、「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」に追加される。

起動

00 初回起動時は要設定

初回起動時には初期設定が必要だ。画面の指示にしたがって設定しよう。

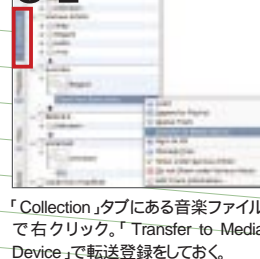
01 設定ウインドウ起動

「Settings」→「configure Amarok」を起動。

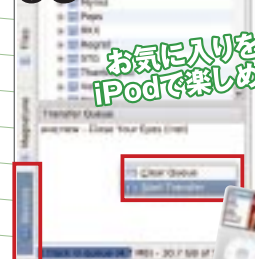
02 プラグイン変更

iPodをパソコンに繋ぎ、「Media Devices」タブからiPodのプラグインを設定しよう。

03 iPodを認識

02の設定を正しく行うと、接続しているiPodが認識され、楽曲などが表示可能になる。

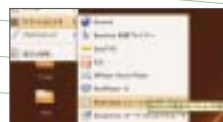
04 転送機能を起動

「Collection」タブにある音楽ファイルで右クリック。「Transfer to Media Device」で転送登録をしておく。

05 転送開始

「Device」タブに移動して右クリックから「Start Transfer」で、登録しておいたファイルがiPodに転送される。

02 MP3&Music アルバムアートを自動表示 iPodにも対応する標準プレイヤー Music Player

Rhythmbox
作者名:GNOME Team
インストール方法:デフォルトでインストール済み

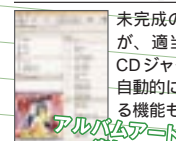
Ubuntuの標準プレイヤーが「Rhythmbox」だ。多くのフォーマットに対応し、さらにはiPodの管理まで可能という優れもの。標準のプレイヤーに指定してあるのでこだわりがなければこれを使うのがオススメ。また標準ソフトなのでインストール作業は不要だ。

起動

「アプリケーション」メニュー「サウンドとビデオ」から選択しよう。

使い方

初期状態でiPodに対応

iPodの認識は特に設定しなくてOK。転送に関してはiTunesのようにiPodのドライブにドラッグするだけで追加される。

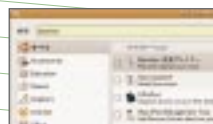
ジャケット表示機能

未完成の部分も多いが、適当に検索してCDジャケット画像を自動的に表示してくれる機能もある。

アルバムアート表示で楽しさ倍増!!

03 MP3&Music 未だ発展途上ながら便利な機能などを多数搭載 Music Player

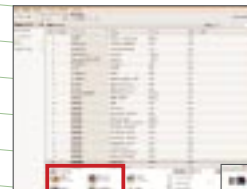
Banshee
作者名:Aaron Bockover
インストール方法:アプリケーションの追加と削除から

「Banshee」は非常に柔軟な音楽管理が可能なiTunes風のプレイヤーだ。以前は対応しているフォーマットが少なく使い勝手がいまひとつだったが、開発が進み非常に良いプレイヤーになった。ただしiPodの管理は今ひとつ。今後の発展に期待だ。

インストール

「追加と削除」で「Banshee」と検索してインストール。「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」に追加される。

起動

基本画面

起動すると音楽をインポートするか聞いてくるので、どちらかを選択。

再生を開始すると下段に関連するアーティストやおすすめのアーティストを表示してくれる。一応iPodを認識するのだが、文字化けしてしまうので常用するのはオススメできないぞ。

今後の進歩に期待だ!!

世界中のネットラジオを試聴 さらにプラグイン追加で録音も可能 Internet Radio

streamtuner
作者名：Jean-Yves Lefort
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

インターネットラジオに特化しているソフトウエアが「streamtuner」だ。単体では音楽の再生もできないので、ラジオの再生も他のプレイヤーを指定して使う。対応している局の数が非常に多いので便利だぞ。ただし、再生自体は他のプレイヤーが必要。ここでは「VLC」を使用している。

インストール

「追加と削除」から行う。「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」に追加される。

プラグインの追加と再生ソフトの設定

01 プラグインの追加

「sudo apt-get install streamripper」と書き込みインストール。

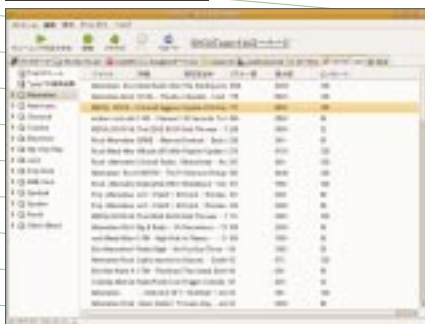
```
sudo apt-get install streamripper
```

02 設定ツールの起動

起動したらまず設定が必要だ。「編集」の「設定」を選ぼう。

03 再生ソフト設定

アプリケーションの「.m3uファイルの試聴」、「ストリームの試聴」の項目を、それぞれ「vlc %q」に変更。これでラジオを聴く準備は完了。

聴取と録音

大量の曲をカテゴリ別に選択していくことができる。当然ブックマークの機能もある。録音ボタンを押すと端末が起動して録音を開始する。この窓を閉じるまで録音しつづける。保存先はホームの下にフォルダができて保存されている。

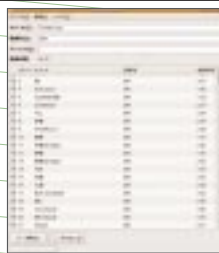
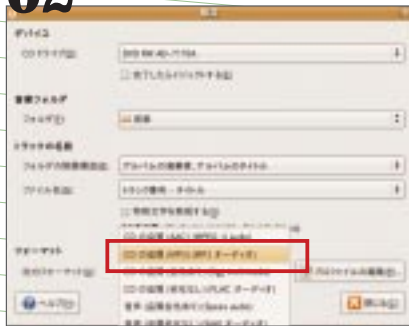
OGGやMP3にも対応可能 シンプルなMP3作成ツール MP3 Ripper

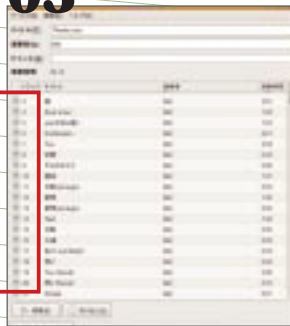
Sound Juicer
作者名：Ross Burton
インストール方法：デフォルトでインストール済み

標準のリッピングツールが「Sound Juicer」だ。しかし、以前（6.10）はoggにしか対応しておらず、非常に面倒だった。7.10ではmp3関連のコーデックをインストールした時点で変換可能になっているぞ。コーデックのインストールはP32で詳しく説明している。もしもまだの場合はそちらから先に行おう。

使い方

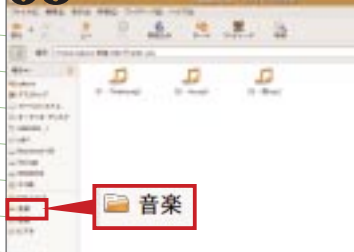
01 CDを入れると自動起動

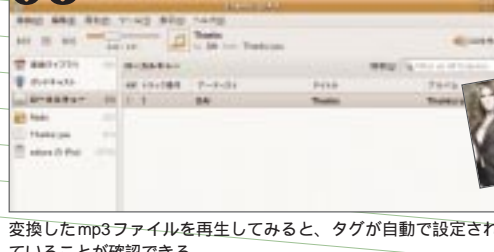
CDをパソコンに挿入するとSound Juicerが自動で起動する。

02 ファイル形式を選択

メニューの「編集」→「設定」を起動し、フォーマットをMP3エンコードに変更。

03 変換するトラックを選ぶ

自分が変換したいトラックにチェックが入っているか確認。基本的に全ての曲にチェックが入っている。

04 エンコード開始

「切り出し」をクリックでエンコードが開始される。

05 エンコード完了

音楽フォルダの中に作成したCDのアルバム名でフォルダができている。

06 ID3タグを自動付加

変換したmp3ファイルを再生してみると、タグが自動で設定されていることが確認できる。

UbuntuでDTMを可能にする本格的オーディオプロセッサー

MP3&Music 06

Music Sequencer

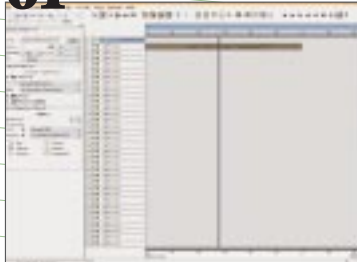
Rosegarden
作者名：Chris Canram, Richard Bown, Guillaume Laurent
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

「Rosegarden」は本格的なオーディオ&MIDIシーケンサーだ。これを使えばUbuntuが作曲ツールになる。MIDIシーケンサーは楽譜形式での編集も可能だ。

インストール

インストールは「追加と削除」から行おう。「アプリケーション」→「サウンドとビデオ」に追加される。

使い方

01 トラック管理画面

メイン画面では、複数のトラックを管理することができる。

02 エディット画面

通常のシーケンサと同様の画面なので慣れている人には分かりやすい。

03 五線譜によるエディット

他のシーケンサーと同様に、五線譜による音楽作成も可能。使い慣れた方法が選べるので扱いやすいぞ。

DTMソフトとは

DTM（DeskTop Musicの略）ソフトとは音楽を作成するために必須のソフトだ。外部音源（シンセサイザーなど）を制御して録音、さらにその録音したデータにエフェクトをかけたりすることができる。音楽を作成するためのソフトなので録音してきた音同士をトラックとして扱って重ねて演奏するといったことも当然できる。また、DTMソフト自体をシンセサイザーとしても動作させることができたりするぞ。

音楽制作に特化したカスタムUbuntu「Ubuntu Studio」

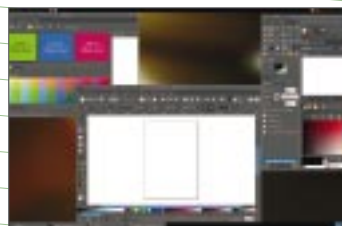
MP3&Music 07

Ubuntu Studio

「音楽作成だって無料でやりたい!」という人に朗報だ。Ubuntuにはクリエイター専用の「Ubuntu Studio」というOSが存在する。これは特に映像や音楽作成に特化しているUbuntuだ。上で紹介している「Rosegarden」を始め、音楽向けのソフトが満載だ。しかも、設定も済んだ状態で起動するのでインストール完了からすぐに音楽作成に移れるぞ。

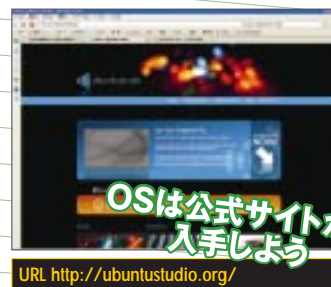
アナログシンセサイザのamSynth。

Rosegardenもデフォルトで搭載。

トランス系ドラムなどのシンセサイザ「Hydrogen」。

画像編集ソフトも内蔵

音楽関連だけでなく、画像編集ソフトなども内蔵している。

入手は公式サイトから

URL http://ubuntustudio.org/

mp3データのタグが文字化けすることがある。このようなデータはまずID3タグのバージョンを2系統に変更し、文字コードを「UTF16」に変更するとUbuntuでも読み込むことができる。iTunesで読み込むことができれば文字化けしないデータになるぞ。

人気のツールも続々対応!!

Google

最近ではパソコンに欠かせないような便利なツールをリリースしているGoogle。Ubuntu版も続々リリースされている!!

続々Ubuntu版が登場

Windows版のリリースがメインのGoogle製ソフトだが、Linux版もしっかりとある。普段の作業に役立つようなものが多いので、使わないのは損だぞ!!

01 Linux用Googleリポジトリ追加でGoogleツールのインストールを簡単に Google Repositories

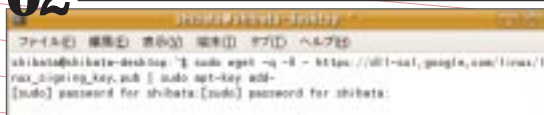
GoogleのLinux用ソフトのいくつかは、専用リポジトリを設定すればSynapticパッケージマネージャーあるいはapt-getコマンドを使ってインストールできる。PicasaとGoogleデスクトップもこのリポジトリに含まれている。ただし、現時点ではGoogle Earthは含まれていない。設定方法は以下のとおりだ。

追加方法

01 端末を起動

まずはコマンド入力を行なうため、GNOME端末を起動しよう

02 コマンドを入力してGPGキーをインストール

リポジトリの追加に必要な「GPGキー」を取得する。長いので間違えないように気をつけよう。

```
sudo wget -q -O - https://dl-ssl.google.com/linux/linux_signing_key.pub | sudo apt-key add -
```

03 ATPラインにリポジトリ追加

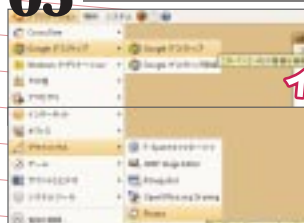
Synapticの「設定」→「リポジトリ」→「サードパーティのソフトウエア」で「追加」を選択し、以下を入力。

```
deb http://dl.google.com/linux/deb/ stable non-free
```

04 GNOME端末でコマンドを実行

以下のコマンドを端末で実行。これでPicasaとGoogleデスクトップが同時にインストールされる。

```
sudo apt-get install picasa google-desktop-linux
```

05 PicasaとGoogleデスクトップが起動可能

これで画像閲覧「Picasa」とデスクトップ検索「Google Desktop」の追加は完了。左の画像のようにメニューから起動することが可能になるのだ。

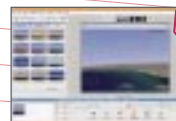
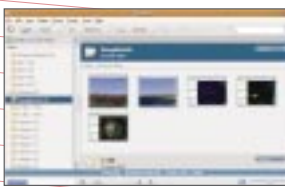
02 画像インデックスを作成 サムネイル表示で管理が簡単 Photo Viewer

Picasa
作者名：Google Ink
インストール方法：GNOME端末から

Picasaは Googleが提供するデジタル写真管理ソフトでWindowsだけでなく、Linuxバージョンがある。このLinuxバージョンは「wine」というエミュレータを利用しており、残念ながらメニューが英語表記になっている。だが、画像のインデックス作成などは自動で行なわれ、あとは閲覧するだけなので、英語が苦手でもOKだ。

起動方法

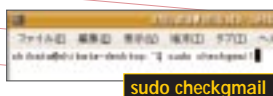
起動はメニューのグラフィックスから行なえる。

起動すると自動でハードディスク内の画像をデータベースする。

レタッチ機能を備えており、明度や色彩、コントラストの補正を簡単に行える。「I'm Feeling Lucky」では1クリックで自動で色彩やコントラストを調整できる。画像の回転などの傾き調整や、トリミングやリサイズ、コラージュ機能も備え、スクリーンセーバーも作成できる。

03 Gmailの新着を通知 UbuntuでGmailが便利に使える Gmail Checker

Check Gmail
作者名：Owen Marshall
インストール方法：Synapticから

Googleの提供するメールサービスGmailの新着メールを知らせる。Gmailを日常的に使っている人には非常に便利なソフト。

インストール

universe リポジトリに含まれている。Synapticからインストールしよう。

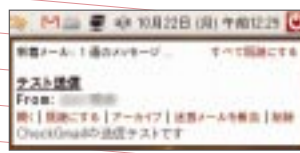
起動方法

Gnome端末で「check gmail」というコマンドを実行して起動する。

```
sudo checkgmail
```

アカウントが必要

当然だがGoogleのアカウントが必要。事前に取得しよう。

使い方

起動すると、画面右上に常駐し、Gmailアカウントに新着メールがくると知らせる。

デスクトップから世界を眺む 新機能も搭載され便利になった

Google Earth
作者名：Google Inc
インストール方法：専用インストーラ

Googleアプリの中でも人気の高いGoogle Earthだが、UbuntuでもLinux版を導入すれば世界中の衛星画像を眺めることができる。衛星画像の表示や3D表示に加えて、NASAの天体画像を表示するSkyやフライトシミュレータといった新しい機能にも対応している。

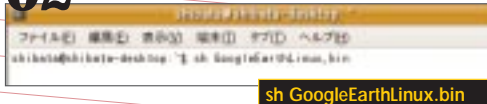
インストール

01 端末を起動

wget http://dl.google.com/earth/client/current/GoogleEarthLinux.bin

まずメニュー→「アクセサリ」→から「端末」を起動。「$ wget http://dl.google.com/earth/client/current/GoogleEarthLinux.bin」を実行しよう。

02 インストーラ起動

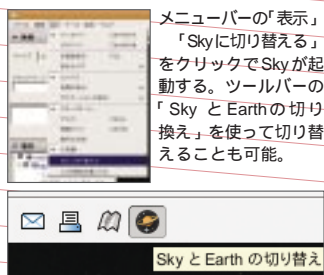
sh GoogleEarthLinux.bin

ダウンロードした「GoogleEarthLinux.bin」でインストールするには、左のコマンドでGUIインストーラを起動しよう。

03 インストーラ起動

インストール先は自動入力されるが、とくに変更する必要はない。インストールが完了すると、デスクトップ上に、起動用のアイコンが追加される。このアイコンをダブルクリックすればGoogleEarthが起動する。

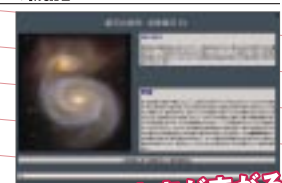
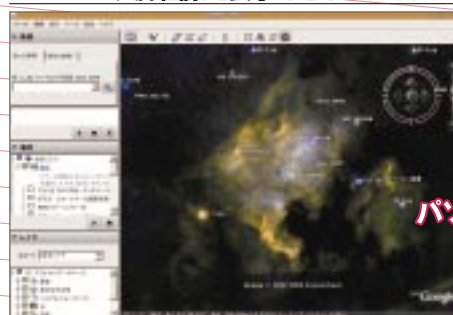
機能を追加してさらに便利に!!

SKY

Google Earthでは、地球だけでなく、宇宙を眺めることもできる。はじめの起動画面では、シンプルな四季の星座が表示されるが、画面上でマウスホイールを回転させると、拡大表示されて鮮明なNASAの天体画像が現れる。全体的に眺めると切り貼りの感じがするもののそれぞれの写真には迫力がある。

Skyの起動方法

メニューバーの「表示」→「Skyに切り替える」をクリックでSkyが起動する。ツールバーの「Sky と Earthの切り換え」を使って切り替えることも可能。

Sky と Earth の切り替え

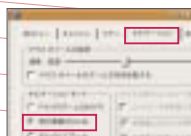
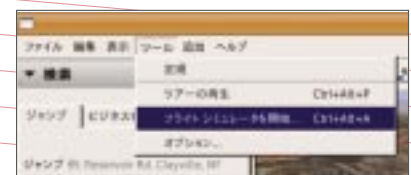
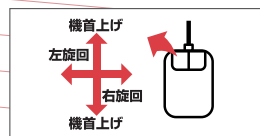
NASAの天体画像を表示できるプラネタリウム機能

パソコンの中に宇宙が広がる

画面上のマーカーをクリックすると、さまざまな天体情報を表示することができる。比較的新しい情報もあり、天文ファンは必見だ。

フライトシミュレータ

Google Earth上で飛行操縦をシミュレートする機能。パイロット気分を味わえる本格的なシミュレータ。バランスをとるのは難しいが、Gモードなら比較的簡単に操作できる。実は この機能、はじめはメニューに設定項目がない。

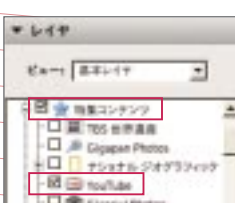
世界を自由に飛びまわれ!!

「Ctrl+Alt+A」キーを押すと、左の起動画面が現れる。2種類の飛行機を選択できる。「現在のビュー」を選ぶとEarthで現在眺めている場所から飛行が開始される。最初は下向きなので、↓キーを使って機首を上げよう。一度起動すると、次回の起動時からは下のようにメニューバーで起動できるようになる。

「ツール」→「オプション」→「ナビゲーション」で「飛行操縦」を選択すると、マウスを使って操縦できるようになる。

Gモードでのマウス操作

左クリック+前後にドラッグ→機首を上げ下げする。
左クリック+左右にドラッグ→左右に旋回する。

Youtubeと連動

YouTubeとの連携機能を利用すると、各地の動画を見ることができる。YouTubeのマーカーが付いている場所には、関連した動画があり、このマーカーをクリックすると、右の画像のようにポップアップ画面が現れる。まずレイヤメニューから「YouTube」にチェックを入れよう。

使い方

メニューの「レイヤ」→「特集コンテンツ」→「YouTube」にチェックで、マーカーが表示される。

世界のあちこちを動画で鑑賞!!

ポップアップ画面の画像をクリックすれば、Firefoxが起動してその動画のサイトが表示されるようになっている。なお、ソフトウェアをダウンロードするよう指示があるが、このソフトはWindows用なのでLinuxでは使用できない。

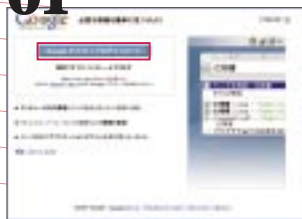
05 PC内のデータを検索! Webブラウザでも検索可能

File Search

Google Desktop
作者名：Google Ink
インストール方法：Package Installer

Googleデスクトップを使えば、PC内のデータをWEBブラウザ上で検索できる。Googleデスクトップはインストールした PC でのみ実行されるので、個人情報が漏れることはない。拡張機能である「クイック検索ボックス」を使えば、ブラウザを起動しないで検索することも可能だ。

インストール

01 サイトにアクセス

http://desktop.google.com/ja/linux/にアクセスして「Googleデスクトップをダウンロード」をクリック。

02 ファイルをダウンロード

ダウンロードページで「無料ダウンロード (.deb) -Debian/Ubuntu x86」をクリック。

03 利用許諾に同意

最初の起動時に「拡張機能」を有効にしておこう。→「同意してインストール」をクリック。

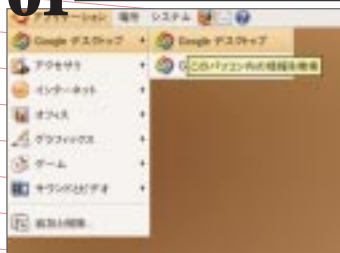
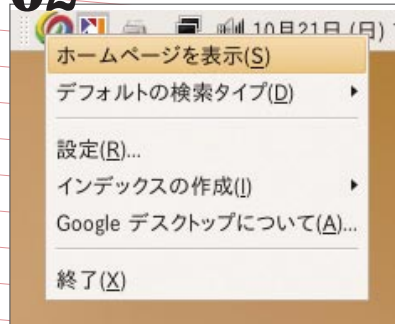
04 利用許諾に同意

ダウンロード時に「アプリケーションで開く」のタブから「GDebi PackageInstaller」で即座にインストールすることが可能。

GDebi Package Installerとは

ダウンロード時のダイアログから選択することでdebファイルを直接インストールすることができる。ソフトが安心できる発行元の場合は、コレを使えばスムーズにインストールできる。

起動

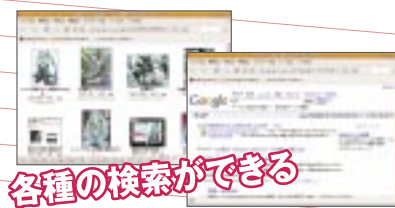
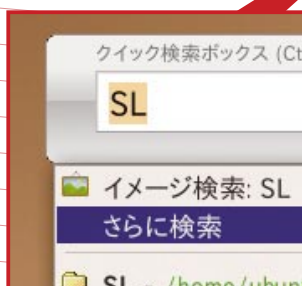
01 メニューから起動

アプリケーション→Googleデスクトップ→Googleデスクトップで起動。

02 アイコンを右クリック

虹色のアイコンを右クリックして「ホームページを表示」を選択。

03 ブラウザが起動

Firefoxが起動して、検索ページが表示される。最初はパソコン内にあるファイルのインデックス作成に時間がかかる。

クイック検索ボックス

Googleデスクトップの起動中に、デスクトップ上でCtrlキーを2回押すと、上のような検索窓が現れる。キーワードを入力すればハードディスク内のデータがリストアップされる。

検索結果はこのように一覧になって表示される。

ここで「さらに検索」を選択し「ウェブを検索」を指定すると、キーワードのWeb検索が可能。

検索フォルダの指定

アプリケーション→Googleデスクトップ→Googleデスクトップ設定を選択。

下のようなページが現れるので、ここで検索するフォルダを指定する。初期設定では、多くのmanフォルダが登録されているので、検索したいフォルダを絞った方が使い易いだろう。

Ubuntuで始める第二の人生

セカンドライフ Second Life

2007年話題の「第二の人生」もLinux対応！ Ubuntuで充実した人生を？

Linux版でもバッチリ第二の人生を満喫！

普段はWindowsだLinuxだと対抗意識を燃やしがちな人たちであっても、セカンドライフならプラットフォームの垣根を越えて交流することが可能だぞ。

01 あの日見た夢を実現!? 第二の人生で何をするかはあなた次第!! Second Life

Second Life
作者名：Linden Lab
インストール方法：サイトからダウンロード

3D仮想空間を提供する最近話題のSecond Life。これもLinuxバージョンが配布されている。以前のバージョンでは、日本語入力ができないなど、使いづらい面があったが、最新版では日本語入力・メニューの日本語表示にも対応しており、問題なく利用できる。Second Lifeを利用するには、まずユーザ登録が必要なので忘れずに行なおう。

アカウントの登録

01 サイトにアクセス

まずはブラウザで公式サイトにアクセス。左上のオレンジの部分をクリックしよう。

02 アバター、コミュを選択

登録時にコミュを選択することで、セカンドライフ開始時のスタート地点などが変わってくるぞ。

03 必要事項を登録する

メールアドレスなどの必要事項を入力。アドレス宛に確認メールが届くので、登録を完了させよう。

ダウンロード

01 SecondLifeビューワを入手

再度サイトにアクセス。登録時と同様にオレンジのアイコンをクリックした先からソフトを落とす。

Linux版はまだアルファ版ということなので「自己責任で」という警告が表示される。

02 本体アーカイブを展開する

入手した圧縮ファイルをダブルクリックして展開。あるいはダウンロード時に書庫マネージャで展開する。

ビューワの起動

01 スクリプトファイルを起動

解凍したフォルダの中にあるsecondlifeというスクリプトファイルをダブルクリックすればよい。

02 メニューを日本語化する

ビューワのメニューは、はじめは英語表記になっている。ログイン画面の右下にある「Preferences...」ボタンを押してポップアップ画面の下の方にある「Language:」で日本語を選択し、ビューワを再起動すればよい。

個人が作り上げたさまざまな建造物を巡るだけでもなかなか面白いぞ!!

まだ見ぬ世界がそこに!!

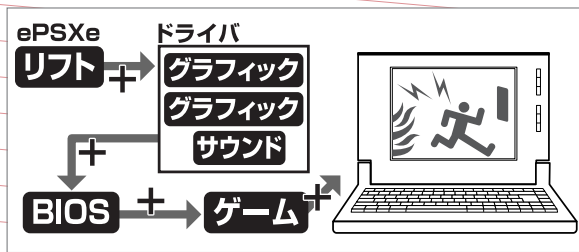
Linuxで遊べる家庭用ゲーム

エミュレータ Emulater

仕事やネットだけに使うのではもったいない！ Ubuntuなら懐かしの名作ゲームも楽しめるのだ!!

オールドゲームはLinuxPCでプレイしろ!!

先頃ついにファミコンの修理を任天堂が打ち切ったというニュースがあった。オールドゲームファンにとっては残念なことだろう。だが、心配は無用。Ubuntuとエミュレータを使えば、大抵のオールドゲームは遊ぶことができるぞ。

エミュレータとはゲーム機などの機器を再現し、パソコン上でゲームのプログラムを動作させ、ゲームを遊ぶことを可能にするプログラムのこと。これらはWindows上で動作するものが多い印象だが、じつはLinuxで動くエミュレータも多数存在する。だが、Windowsのエミュレータは、インストーラで簡単にインストールできるのに対して、Linuxのエミュレータは動作させるまでの手順が面倒なものが多い。そのため、初心者にハードルが高いと思われるPlayStationエミュレータの「ePSXe」についてUbuntuにePSXeをインストールする方法から、各種プラグインの設定など、順を追って説明していくぞ。作業はすべてコマンドラインで行なうので、大変な作業だが、うまく成功すれば数々の名作が君のパソコンで起動する。それだけの価値があるソフトなのでぜひチャレンジしてほしい。

01 Emuleter 4000タイトル以上のゲーム数を誇る PlayStationをエミュレートして遊ぶ PS Emulator

ePSXEの本体をダウンロード＆解凍

ePSXe
作者名：epsxe
インストール方法：GNOME端末より

では、早速ePSXeをインストールしてみよう。今回はダウンロード、解凍はすべてコマンドラインを使って作業する。まずは「アプリケーション」→「アクセサリ」→「端末」をクリックして作業のメインとなる「端末」を立ち上げよう。もし、文字が小さいと感じた場合は、端末のメニューの「表示」→「拡大」を選んで文字を大きくしておこう。文字を大きくしておいた方が、タイピングミスを減らすことができるぞ。つぎに起動に必要なソフトウエアライブラリとePSXEの本体をダウンロードし、フォルダを作成して、プログラムをそこに解凍しよう。

01 ライブラリダウンロード

起動に必要なライブラリ「libgtk1.2」をダウンロードして、解凍をする。コマンドは「sudo apt-get install unzip libgtk1.2-common libgtk1.2」。

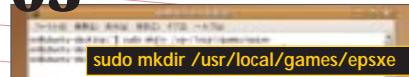
```
sudo apt-get install unzip libgtk1.2-common libgtk1.2
```

02 ePSXeダウンロード

```
wget http://www.epsxe.com/files/epsxe160lin.zip
```

続いてePSXeの本体をダウンロードする。「wget http://www.epsxe.com/files/epsxe160lin.zip」とタイプする。ダウンロードされたファイルはhomeフォルダに保存される。

03 フォルダを作成

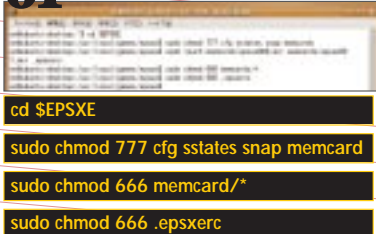
```
sudo mkdir /usr/local/games/epsxe
```

上記のようにタイプして、インストールフォルダを作成。作業時に毎回「/usr/local/games/epsxe」とタイプするのは面倒なので「export EPSXE='/usr/local/games/epsxe'」とexportコマンドで「EPSXE＝/usr/local/games/epsxe'」とWindowsでいうショートカット的な設定をし、今後の作業をやりやすくする。最後に、「sudo unzip -d $EPSXE ~/epsxe160lin.zip」タイプをして、ePSXeを/usr/local/games/epsxeに展開する。

```
sudo unzip -d $EPSXE ~/epsxe160lin.zip
```

BIOSとプラグインの設定

ePSXEを使ってゲームを動かすには、複数のプログラムが必要だ。先ほどダウンロード・解凍した「ePSXeの本体」、画面の調整を行う2つの「GPUプラグイン」、音周りの「SPUプラグイン」、そして「PSのBIOS」の計5つを用意しなければならない。GPU、SPUプラグインはWebから簡単にダウンロードすることができるが、PSのBIOSの準備はなかなか大変。Googleなどで Web上探すと多数のPS BIOSを発見できるが、これらはかなりグレーな存在。合法で確実な方法はアクションリプレイ3（PAR3）と専用のツールを使って、PS実機からBIOSは吸出すやり方だ。このBIOS抽出に関しては、「PAR3でプレイステーションBIOSを吸い出す(http://hp.vector.co.jp/authors/VA018359/par3bios/par3bios.html)」というサイトなどを参考に実行してみよう。では、ここではプログラムフォルダのパーミッション設定、BIOSデータの設定、GPUプラグインのダウンロードと解凍を解説していく。

01 パーミッション設定

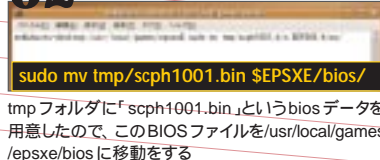
```
cd $EPSXE
sudo chmod 777 cfg sstates snap memcard
sudo chmod 666 memcard/*
sudo chmod 666 .epsxerc
```

ePSXe本体をインストールしたフォルダにパーミッションの設定をしなければならない。Windowsを使っているとピンとこない作業だが、とても重要な作業だ。ちなみにパーミッションとは許可属性のことで、特定のファイルやフォルダへのアクセスを制限する。

02 biosデータを移動

```
sudo mv tmp/scph1001.bin $EPSXE/bios/
```

tmpフォルダに「scph1001.bin」というbiosデータを用意したので、このBIOSファイルを/usr/local/games/epsxe/biosに移動をする

03 プラグインの移動

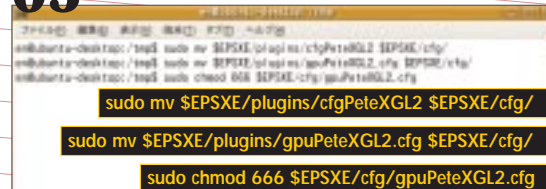
```
wget http://www.pbernert.com/gpupetexgl208.tar.gz
```

「cd /tmp」で、tmpフォルダに移動する。「wget http://www.pbernert.com/gpupetexgl208.tar.gz」とタイプをして、GPUプラグインをtmpフォルダにダウンロードする。

04 ファイルを解凍

```
sudo tar xfz ~/gpupetexgl208.tar.gz -C $EPSXE/plugins/
```

つぎにこちらのコマンドでファイルを解凍する。

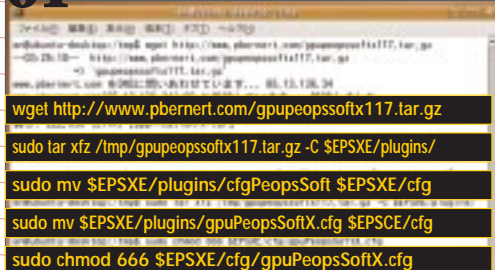
05 必要ファイルを移動

```
sudo mv $EPSXE/plugins/cfgPeteXGL2 $EPSXE/cfg/
sudo mv $EPSXE/plugins/gpuPeteXGL2.cfg $EPSXE/cfg/
sudo chmod 666 $EPSXE/cfg/gpuPeteXGL2.cfg
```

「mv」コマンドで、プラグインフォルダから必要なファイルを2点「cfg」フォルダに移動し、gpuPeteXGL2.cfgファイルにパーミッションを設定する。

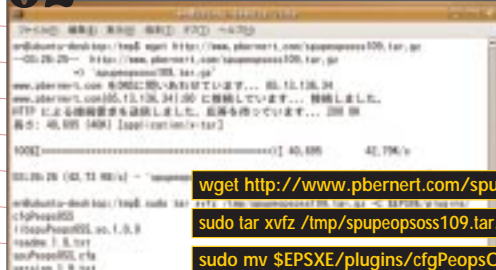
続・プラグインのインストールと設定

ここでは、描画に必要なもう1つのGPUのプラグインと、サウンド関係の「OSS」プラグインのインストールと設定をする。2つとも操作は同じで、「wget」コマンドを使ってファイルをダウンロードして、「tar」コマンドで圧縮ファイルを「plugins」フォルダに展開。「mv」コマンドを使ってそれぞれの設定ファイルである cfg ファイルを抽出して、「cfg」フォルダに移動するのだ。ちなみに、Linxu でソフトをインストールする際には今回の手順で行なっている「wget」と「tar」コマンドをよく使うので、今回の作業内容は、今後いろいろなソフトをインストールするときに役に立つことは間違いないぞ。

01 ダウンロードと移動

```
wget http://www.pbernert.com/gpupeopssoftx117.tar.gz
sudo tar xfz /tmp/gpupeopssoftx117.tar.gz -C $EPSXE/plugins/
sudo mv $EPSXE/plugins/cfgPeopsSoft $EPSXE/cfg
sudo mv $EPSXE/plugins/gpuPeopsSoftX.cfg $EPSCE/cfg
sudo chmod 666 $EPSXE/cfg/gpuPeopsSoftX.cfg
```

「wget」コマンドを使って、GPUプラグインのgpupeopssoftx117.tar.gzをダウンロードする。ダウンロードしたファイルをtarコマンドで「プラグインフォルダ」に解凍をして、必要なファイルだけ「cfg」フォルダに移動をする。

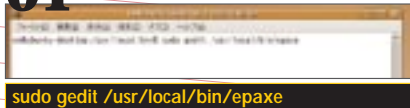
02 ダウンロードと移動

```
wget http://www.pbernert.com/spupeopsoss109.tar.gz
sudo tar xvfz /tmp/spupeopsoss109.tar.gz -C $EPSXE/plugins/
sudo mv $EPSXE/plugins/cfgPeopsOSS $EPSXE/cfg
```

GPUプラグインと同じ作業をOSSプラグインでも同様に行う。そろそろ解説をみなくても、わかってくるかな!?

ePSXe本体の設定と起動

ここで最後の設定なので、さっさと設定をしてePSXeを立ち上げよう。先程まではファイルのダウンロード&解凍がメインだったが、ここでは、ePSXeを起動させるために、テキストで起動ファイルを作成する。設定ファイルを作成し、設定内容を記述して、パーミッションを指定した後、ターミナルから「epsxe」とタイプすればePSXeが起ち上がる。起動したらまず、「Config」→「BIOS」を選んでインストールしたBIOSを指定。次に「Config」→「Video」を選んで、Videoのプラグインを選択しよう。Pete's XGL2 Driver 2.8とP.E.Op.S. Softx Driver 1.17と2つあるので、自分の環境にあわせて選択し、「TEST」ボタンを押して確認をする(わからなければ、どちらか選びゲームを起動してダメだったらもう一方を選ぼう)。あとはゲームソフトが、CD-ROMの場合「File」→「Run CD ROM」。イメージファイル化してある場合は「File」→「Run ISO」を選択することで、ゲームが起動して遊べるようになるぞ。

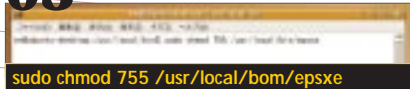
01 ファイルの作成

```
sudo gedit /usr/local/bin/epaxe
```

geditというエディターを使って起動ファイルを作成しよう。このコマンドは、geditを使って「/usr/local/bin/」にepsxeというファイルを作ることを意味している。

02 ファイルを編集

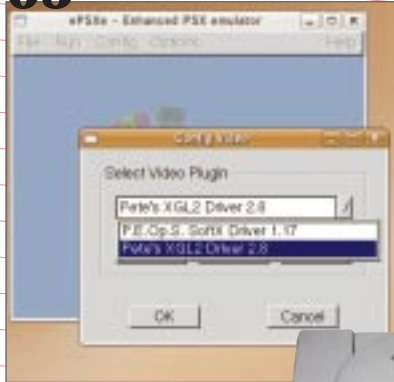
geditが起動したら左記のテキスト文章を打ち込んで、保存のボタンを押そう。

03 パーミッション指定

```
sudo chmod 755 /usr/local/bom/epsxe
```

ファイルを保存したら、パーミッションの指定をする。

04 端末から起動

端末に「epsxe」と入力すれば、ePSXeが起動して、左記の画面が表れるはずだ。

05 プラグインを設定

BIOSやビデオプラグインの設定をしよう。ビデオのプラグインは2つ出てくるので、自分の環境にあわせてセレクトする。

06 起動するゲームを選択

すべての設定が終わったら、FileメニューからCD-ROMかゲームイメージのISOのどちらかを選んでゲームを起動させよう。

07 ゲームが起動

きちんと設定ができていたらこのように読み込んだゲームが起動するはずだ。

PS2エミュレーター用「PCSX2」も面白いぞ

ココで紹介したePSXeだけでなく「PCSX2」(*2)というLinux用のPS2エミュレーターソフトもリリースされている。このPCSX2はソフトで、起動できるソフトも多く、多機能なエミュレーターだ。だが非常に完成度が高いPCSX2にも、大きな弱点が1つある。それはかなりハイスペックなCPUを要求するという点だ。特に3Dゲームをする際はシビアで、快適にプレイするにはCPUはCore 2 Duoクラス以上はないと厳しいようだ。なので、ハイスペックのマシンを持っているユーザーは、であれば導入してみてもだろう。ちなみにPCSX2は、右記公式サイト(http://www.pcsx2.net/)などにおいて日々更新版がリリースされ続けており、最新版は2007年の11月に出たばかり。PS2がUbuntuでサクサク遊べる日も近いぞ。

これがなきゃ始まらない! ネットワーク

いくらUbuntuが便利でも、ネットが使えなければただの箱。ここではネットを活用するさまざまなツールを紹介するぞ!!

Windowsと同じオープンソースツールが使える

定番のブラウザ「Firefox」や、お馴染みのメーラー「Thunderbird」といった、Windowsでも操作できるオープンソース向けのツールは、Linuxでももちろん使用することができるぞ。

言わずとしれたオープンソースブラウザ もちろんUbuntuでも使用可能!! Browser

もはや定番といえる、オープンソースブラウザの雄「Firefox」。Ubuntuに標準搭載する数少ないソフトウエアのうちの一つだ。標準で搭載されているだけあって、起動はメニューバーのアイコンから一発でOKだ。ここでは「アドオン（拡張機能）」の追加について説明しよう。お気に入りのアドオンを追加して自分好みのブラウザにカスタマイズしよう!

Firefox
作者名：Mozilla Foundation
インストール方法：デフォルトでインストール済み

起動方法

デスクトップのメニューバーにあるFirefoxのアイコンをクリックするだけで起動することができる。

アドオンの追加方法

Firefoxはアドオンという機能拡張を実現している。ここでは「TabBlowser Preference」という機能を例にとって、実際に追加の手順を説明していこう。オススメのアドオンも紹介しておくぞ。

TabBlowser Preferenceについて
Firefox本体のタブの設定項目が大幅に増える「TabBlowser Preference」は、タブの挙動を細かく制御できる。

01 管理ウインドウを呼び出す

Firefoxのメニューバーからアドオンの管理ウィンドウが出せる。アドオンの追加、設定、削除などはこのウィンドウから行うので覚えておこう。

02 ダウンロードサイトへ移動

右下の「新しい拡張機能を入手」というリンクをクリックするとアドオン追加のWebサイトに飛べるぞ。

03 ダウンロード

「検索」などを利用してお目当てのアドオンを探し、「インストール」ボタンをクリック。今回はTabBlowser Preferenceを選択。

04 インストール

「署名がありません」と表示されるが問題なし。「今すぐインストール」を押そう。

05 有効に

インストール終了後、Firefoxを再起動してアドオン管理ウインドウを開こう。追加が無事に完了した事がわかる。削除する場合は「削除」ボタン、一時的に無効にするには「無効」ボタンを押すだけ。

アドオンを追加してより使いやすく!!

オススメ&必須アドオン

アドオン名	機能
TabBlowser Preference	タブブラウジングの強化
Mouse Gesture	マウスの軌跡でページナビゲーションができる
AdBlock Web	広告を排除してページを閲覧できる
Text Link	ttp//~/のような不完全なリンクへ素早く飛べる
Session Saver	ソフト終了時のセッションを保存できる

アウトルックに似たデザインで 扱いが簡単な標準メーラー Mailer

Ubuntu標準付属ソフト第2弾は、インターネットには欠かせないメーラーの「Evolution」。Outlookクローンとして開発されているので、Outlookを使い慣れた人にとっては親しみやすいハズ。スパムフィルタリング、スケジューラや連絡帳など一通りの機能は揃っている。起動するにはFirefoxと同様にメニューバーのアイコンをクリックするだけなので、ものは試しに使ってみよう。

Evolution
作者名：Novell inc.
インストール方法：デフォルトでインストール済み

初回起動時の設定

初回起動時にはアカウントの設定が必要だ。使っているメールアカウントに沿って設定を行おう。基本的にはメールサーバ関連の設定さえ合っていればメールのやり取りはできるぞ。

「bogofilter」について

ひと口にスパムフィルタといっても、実にたくさんのフィルタがある。「bogofilter」は、過去にスパムと判定されたメールの傾向を学習することで、未知のスパムメールも判定できるのだ。

受信トレイからスパムを選択して、「ジャンク」をクリックすると、自動的に学習が行われる。しばらく使っているとスパムを自動的に選別してくれるはずだ

COLUM Evolutionと文字コードの問題について

Evolutionがデフォルトで使用する文字コードでは、メールを送ると日本語の文字化けが起きる。送信メールの文字コード変更を行おう。

01 設定ウインドウを呼び出す

メニューバーの「編集」→「設定」で設定ウィンドウが出せる。

02 文字コードを設定

「メールの設定」で「デフォルトの文字コード」を「日本語(ISO2022JP)」に変更しよう。

03 文字セットを変更

同様に「コンポーザの設定」で文字セットを「日本語(ISO-2022-JP)」に設定。これで文字コードの設定は完了だ。

さらに発展中のオープンソースメーラー Windowsからのメール引き継ぎも可能

Mailer

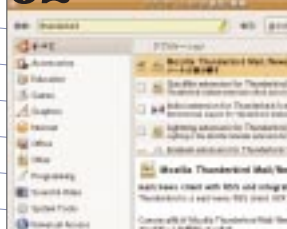
Thunderbird
作者名：Mozilla Foundation
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

Mozilla Foundationによって開発されている、オープンソースのメーラー「Thunderbird」。いわばFirefoxの兄弟分といえる存在だけに、アドオンを追加する事でさまざまな機能拡張が行えるようになっている。ここでは「Spamato」というアドオンを例に説明しよう。

インストール

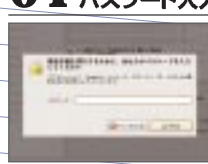
01 設定ウインドウへ

インストールは「アプリケーション」の「追加と削除」から。

02 ボックスにチェック

「Thunderbird」のチェックボックスをチェックして、変更を適用させよう。

03 インストール

適用をクリックしてインストール開始だ。

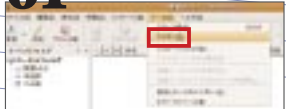
04 ログイン パスワード入力

パスワードの入力を求められたらログイン時のパスワードを入力しよう。

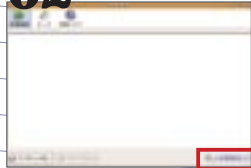
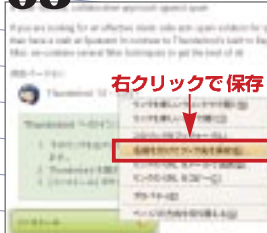
05 アカウント設定

画面の指示に従って、アカウントを作成しよう。メールサーバの設定は自分の使っているメールアカウントに沿って設定しよう。

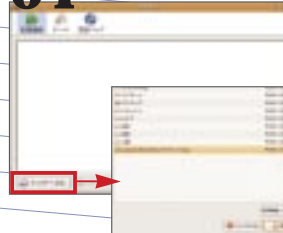
アドオンの追加

「Spamato」はJavaのバージョン1.5以上が必要だ。最新のUbuntuなら問題ないが、古い場合はアプリの「追加と削除」から「Java Runtime」をインストール。バージョンはGNOME端末で「java-version」と入力すると確認できる。

01 管理ウインドウを展開

「ツール」→「アドオン」でアドオンの管理画面を出そう。

02 リンクをクリック

Firefoxと同じようなアドオン管理画面が表示される。右下の「拡張機能を入手」をクリック。

03 アドオンを保存

普通にクリックするとFirefoxのアドオンと認識してしまうので、まずは右クリックからファイルとして保存しよう。

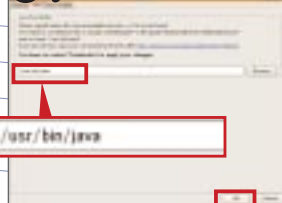
04 アドオンをインストール

アドオンの管理画面で「インストール」をクリックし、先ほどダウンロードしたファイルを選択してインストール。終了後はThunderbirdを再起動しよう。

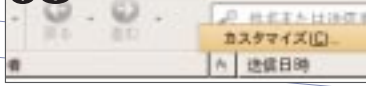
05 ソフトを再起動

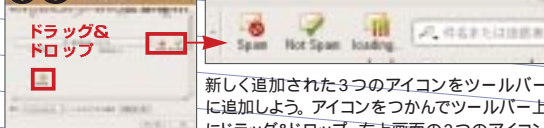
再起動すると、上のようなエラーが出るのだが、気にせずにOKをクリックしよう。

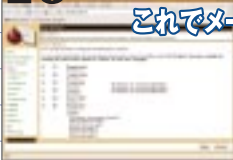
06 再度設定を選択

再び、アドオンの管理画面で「設定」ボタンを押そう。

07 javaを設定

ここではjavaのパス設定を行おう。ボックスに「/usr/bin/java」と入力し、OKボタンを押すのだ。設定ができたら再起動しよう。

08 ツールバーからカスタマイズ

メイン画面のツールバー上で右クリックし、カスタマイズ画面を開こう。

09 アイコンをツールバーに追加

新しく追加された3つのアイコンをツールバーに追加しよう。アイコンをつかんでツールバー上にドラッグ&ドロップ。右上画面の3つのアイコンが左から、受信したメールのspam認定、解除、フィルタの詳細な設定だ。

10 Spamatoの設定

これでメールがより便利に

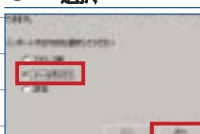
「ツール」に「Spamato」が追加された。ここからWebブラウザにジャンプして詳細設定が行えるようになるぞ。

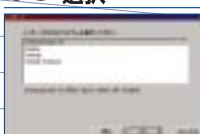
COLUMN Windowsからのメールの引き継ぎ

メーラーを乗り換えるならば、今まで受信／送信したメールも一緒に引っ越したいと思うのが人情だろう。しかし、OutlookからLinux上のThunderbirdへデータのエクスポートを直接行う事はできない。そこでWindows上で動くThunderbirdを中継して、メールデータの引っ越しを行う方法を紹介しよう。

01 Windows上のThunderbirdでインポート

Windows上のThunderbirdで「ツール」→「インポート」。

02 メールボックスを選択

メールボックスを選択し、「次へ」を選択。

03 インポート元を選択

次にインポート元のメーラーを選択しよう。

04 メールデータをUbuntu上にコピー

Windows上の「C:\Documents and Settings\ユーザー名\ApplicationData\Thunderbird\Profiles\ランダム.default\Mail\Local Folders\」にある左の3つのファイルを、Ubuntu上の「/home/ユーザー名/.mozilla-thunderbird/ランダム.default/Mail/Local Folders/」以下にコピーすればOKだ。なお「ランダム」の部分は、メーラーの設定によって英数字が変化する。

Thunderbirdを起動すると受信トレイが増えている。これで移行は完了だ。おつかれさまでした。

各種メッセンジャー対応で複数アカウントを一括管理

Messenger

Pidgin
作者名：Sean Egan
インストール方法：デフォルトでインストール済み

今をときめくマルチプロトコル型のメッセンジャーソフトが「Pidgin」だ。Ubuntu7.10には標準で付属しているのでインストール作業もいらないぞ。「Twitter」への投稿も簡単に行えるので、最近流行のネット上でのゆる一い繋がりを求めるならぜひとも使いたいソフトだ。

起動方法

「アプリケーション」→「インターネット」→「Pidgin～」で起動する。

01 要アカウント取得

初回にアカウントの追加を求められる。MSNなどのアカウントを取得しておこう。

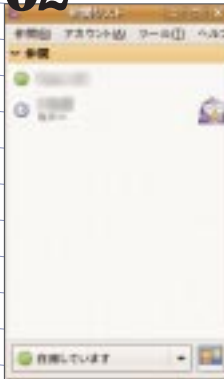
「Gaim」の後継?

ほとんどのLinuxに標準で付属しているPidginだが、Ubuntu7.04までは「Gaim」というメッセンジャーソフトがバンドルされていた。実はこの開発元は全く一緒。Gaimの後継としてリリースされたのがPidginなのだ。

使い方

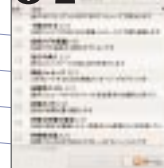
01 メッセンジャーを選ぶ

自分の持っているメッセンジャーアカウントにしたがって設定しよう。チェックを入れたアカウントでの操作が可能だ。変更や削除もできる。

02 基本の画面

外観は非常にオーソドックス。とはいえファイル転送や新着メールのチェック（但しアカウントによる）もサポートしているぞ。シンプル故に操作も直感的だ。アイコンや状態の追加も可能なので試してみよう。

03 チャット開始

メインウィンドウで相手の名前をダブルクリックするとチャットウィンドウが出る。単純明快だ。

04 プラグイン

面白いのが、プラグインによる機能の追加ができるところだ。サードパーティのプラグインの開発が盛んに行われていて日々様々な機能が追加されている。色々と遊んでみてほしい。

大容量ファイルのやりとりもFTPなら手軽かつ簡単にできる

FTP Client

FTPとは

日本語でいうところの「ファイル転送プロトコル」。文字どおり、ネットを通じてファイルの転送を行う際の規約のことを指す言葉だ。ここで紹介するのは、FTPに必要なクライアントソフトである。

File Zilla
作者名：Tim Kosse
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

ファイル転送の中で最も有名、かつ普及しているFTPだが、コマンドラインから使うと何かと不便な事も多い。長いファイル名を頑張って入力したは良いものの1文字間違ってたり、深いディレクトリ構造を延々と彷徨うはめになったり。「File Zilla」を使えばそんな悩みも吹き飛ぶぞ!

日本語化

```
cd /usr/share/filezilla
sudo mkdir locales
cd locales
sudo mkdir ja_JP
cd ja_JP
sudo wget http://filezilla-project.org/locales/ja_JP.mo
sudo mv ja_JP.mo filezilla.mo
```

デフォルトでは言語が英語しか無いので、左の手順で日本語化を行おう。一行ずつGNOME端末に入力すればイイ。所々でパスワードを求められたら、ログインパスワードを入力しよう。

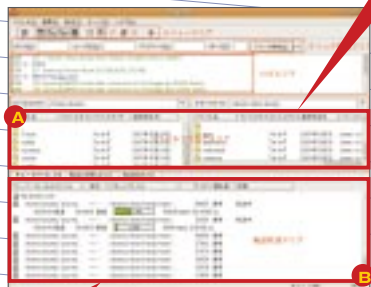
インストール

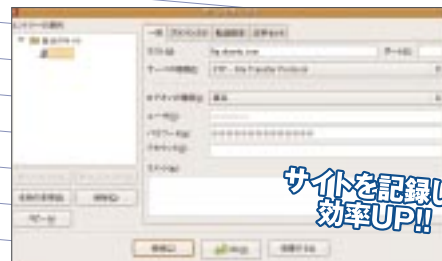
01 アプリケーションの……の設定を変更

まず、アプリケーションの「追加と削除」の設定を変更しよう。画像のようにチェックを入れて、サーバを日本に変更しよう。これでリポジトリの全てのソフトがインストールできる。

02 インストール作業

あとは「File Zilla」を検索してチェックボックスにチェックを入れ、適用をクリックするだけでOKだ。

メイン画面

A ファイルブラウザエリア
左側が自分のマシンのローカルフォルダ、右側がサーバのフォルダだ。サーバで欲しいファイルを見つけたら、左側にドラッグ＆ドロップ。アップロードはその逆だ。

B 転送状況エリア
アップロード、ダウンロードについての各ファイルの転送状況が手に取るようにわかるようになっている。

サイトマネージャを使えばよく使うサイトを登録しておくことができる。空欄にしたところはデフォルトの値を入れてくれるので、サーバ名だけでも大抵は問題なく繋がる

最新のLinuxからちょっとヤバげなファイルまで BitTorrentならなんでも落とせる!!

Bit Torrent

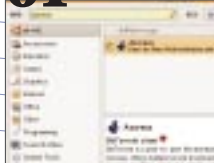
Azureus
作者名：The Azureus Team
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

様々なクライアントソフトが公開されている「BitTorrent」だが、シンプルで使いやすくアイコンもなんだかイカス！のがこの「Azureus」。Javaで開発されているので、Javaバージョン1.X以上がインストールされているか確認しておこう（47ページ参照）。

BitTorrentとは

Bit Torrentは人気がある（持っている人が多い）ファイルほど高速にダウンロードできる、P2Pファイル転送用プロトコルだ。ほかのP2Pソフトと異なり、ダウンロードしたいファイルに対応したトレントファイル（拡張子は.torrent）というモノが必要になる。このファイルをクライアントソフトで開く事により、ダウンロードができるのだ。ちなみに、トレントファイルを集めたサイトをインデックスサイトと呼び、ネット上には様々なジャンルのインデックスサイトが存在する。検索サイトなどから探してみよう。

インストール&初期設定

01 アプリケーションの追加と削除を起動

インストールはやはりアプリケーションの追加と削除メニューからだ。見つからないときはリポジトリの設定を確認しよう（48ページのFile Zillaを参照）。

02 言語設定

起動すると、設定ウィザードが立ち上がる。言語は「ja(JP)」を選択して「次へ」をクリック。

03 ユーザーレベルを設定

続いてユーザーレベルの設定をする。トレントファイルの取得だけが目的なら、初心者モードにしておこう。自分で配信などを行う場合は、より高いレベルのモードを選択。この辺りの設定は後からも変更できるぞ。

04 回線の選択

使用している回線にあわせて転送速度を選ぼう。速い設定を選んでも動作が遅くなるだけなので、見栄は張らないように。

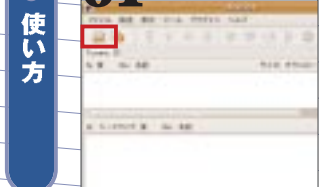
05 ポート設定

通信に用いるポート番号が指定できる。「テスト」をクリックするとそのポートでTCP通信が可能かわかるぞ。

06 保存先を指定

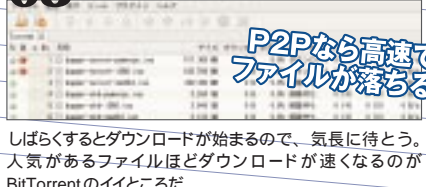
トレントファイルの自動保存先の設定だ。特に変える必要がなければでデフォルトでよいだろう。これで設定は完了だ。

使い方

01 画面構成

構成は至ってシンプル。画面上にダウンロード、下にアップロード状況が表示される。左上のボタンをクリックするとダウンロードの設定ができるぞ。

02 タスクの登録

取得したトレントファイルを追加しよう。フォルダごと登録したり、URL直接開くことも可能だ。各アイテム間には優先順位もつけられるぞ。データの保存先の変更もここで行おう。

03 ダウンロード開始

しばらくするとダウンロードが始まるので、気長に待とう。人気があるファイルほどダウンロードが速くなるのがBitTorrentのイイところだ。

Ubuntuから世界中の誰とでも 無料で通話が可能!!

IP Phone

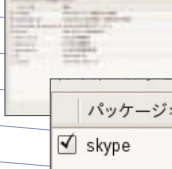
Skype
作者名：Skype Technologies
インストール方法：日本語セットアップヘルパから

説明無用のインターネット電話ソフト「Skype」。インスタントメッセンジャーや、最大５人まで同時に会話する会議通話モードも搭載している。たまに来る海外からのハイテンションなコールはご愛嬌だ。

インストール&初期設定

01 日本語セットアップヘルパからインストール

インストールは「日本語セットアップ・ヘルパ」（32ページ参照）で行おう。Ubuntu Japanese Teamが精選したソフトが収録されているぞ。

02 画面構成

セットアップヘルパはカテゴリ別にインストールを選択。デフォルトでチェックが入っているものは無視して、Skypeのみにチェックだ。

	パッケージ名	解説
✓	skype	Skype インターネット電話

使い方

01 起動

起動はメニューの「アプリケーション」→「インターネット」から可能。

「認証されていない」と表示されるが気にせず「適用」をクリックすれば問題ない。

02 使い方

アカウント名とパスワードを入れてログイン。チェックボックスにチェックすると自動ログインがオンになる。メイン画面で登録した相手にダブルクリックすれば、電話がかけられるぞ。

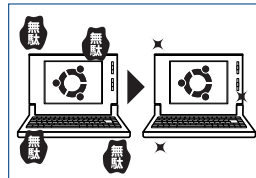
もう電話料金は払う必要なし!!

もっとUbuntuを快適に

高速化Tips

Ubuntuの起動はWindowsに比べて若干遅い。ここではチューニングによるUbuntuの高速起動を行うための解説をしよう。

起動から使用中まで高速化のメリットは大きい

起動時間が長い場合、不要なファイルが起動している場合がある。さらには起動後も常駐し続けてUbuntuの動作を遅くしてしまっているのだ。これらを停止する効果は大きいぞ。

起動を高速化A 不要なサービスをソフトを使って停止

01 Tips チェックボックスから簡単に不要なサービスを停止 Stop Program

Sysv-rc-conf
作者名：Joe Oppegaard
インストール方法：GNOME端末から入手

インストール直後のUbuntuでは不要なサービスまでもが起動しており、これが原因で動作が遅くなっている。不要なサービスを停止してシステムを軽くしよう。まずはサービスの設定ツール「Sysv-rc-conf」のインストールから。ターミナルを利用してインストールしよう。

インストール

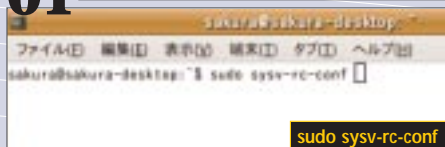
01 ターミナルを起動してコマンドを入力

まずはGNOME端末を開こう。「sudo apt-get install sysv-rc-conf」と入力したらインストール開始だ。

sudo apt-get install sysv-rc-conf

停止しても問題が無いサービスの一覧を表にしたので参考にしてほしい。特にノートパソコン向けのサービスが多く起動している。これらはデスクトップパソコンでは不要なので全て切ってしまおう。

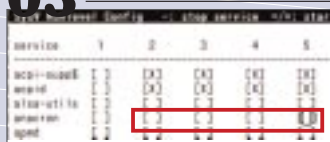
使い方

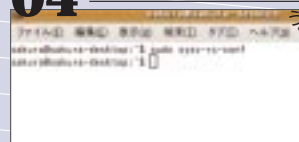
01 起動

sudo sysv-rc-conf

端末で「sudo sysv-rc-conf」と入力するとソフトが起動。

02 基本画面

ソフトを起動するとこのような画面がでる。カーソルで移動、スペースでチェックのon/offができる。

03 不要な項目を停止

停止したいサービスの2から5の欄にあるチェックをスペースキーを使って外していこう。

04 ソフト終了

sysv-rc-confでの作業が終わったら、端末に戻って「q」キーで終了しよう。

常駐ソフト名	ソフトの説明
anacron	「cron」という時間を指定して処理をするサービスの補助を行う。
apmd	古いマシンのための電源管理ツール。
atd	時間を指定して処理を実行する。使われていないので不要。
bluetooth	Bluetoothのサービス。Bluetoothが無いなら必要ない。
cupsys	プリンタ管理サービス。プリンタを所持していないなら不要。
hotkey-setup	キーボードのホットキーのためのツール。
laptop-mode	ノートパソコン用のサービス。デスクトップなら不要。
nvidia-kernel	「nVidia」用のカーネルを起動する。「Geforce」などを使っていない場合は不要
pcmciautil	ノートパソコンのPCカードを使うためのサービス。デスクトップなら不要。
rsync	ネットワークの同期サービス。

02 Tips インストールしてしまえばあとは全自動 起動所用時間など各種データを集計/記録 Record Boot

Boot chart
作者名：Ziga Mahkovec
インストール方法：GNOME端末から入力

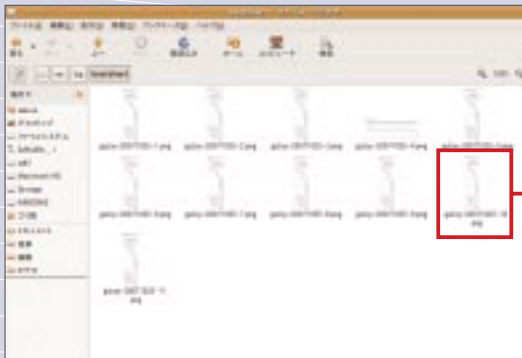
具体的な起動速度の計測は、毎回起動にかかった時間をグラフ化して表示してくれるソフト「Boot chart」を使う。端末を使用してコマンド入力してインストールすれば、あとは自動的に起動時間のログを記録してくれるのだ。

インストール

sudo apt-get install bootchart

メニュー→「端末」で、端末を起動したら、「sudo apt-get install bootchart」とコマンドを入力。これでインストールは完了だ。その後は、再起動してグラフの確認をしよう。

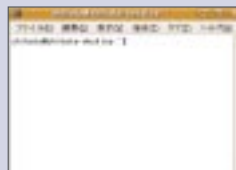
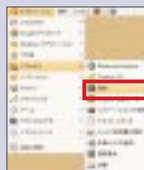
起動ごとに所要時間を計測

起動ごとに"/var/log/bootchart/"以下に起動の時間のグラフができる。それ以外にも様々な情報が表示されるが重要なのは画面上部の「time」という項目。これが起動に要しているトータル時間だ。

起動を高速化B

OSの設定をコマンド入力で変更して高速化

ソフトを使った不要なサービスの停止が終了したら、今度はより高度な高速化を実行する。ここでは端末にコマンドを入力する事でOSそのものの設定を変更するほか、速度低下の原因となっている3つの設定を直接変更してしまう事で更なる高速化を実現してしまうのだ。

作業はすべて端末から

ここからの作業は、すべて端末を介してコマンドを入力することによって行われる。まずは端末をメニューから起動しよう。

「アプリケーション」から端末の画面を呼び出す。コマンドによる設定はやや高度だが、一度覚えればそう難しくはない。

mDNS停止

まず標準の設定では「avahi」というmDNSサーバが起動してしまう。普通にOSとして使用するにはまったく必要ないサーバなので、これをまず停止してしまう。

mDNSとは

mDNSとはMulticast DNSの略語。また、DNSというのはIPの名前解決(ドメイン名からIPアドレスに変換)を行なうものだ。mDNSはそのDNSパケットを複数のIPに対して送信するIPマルチキャストを行なうもので、サービスを探すためなどに用いられている。

01 設定ファイルを開く

sudo gedit /etc/default/avahi-daemon

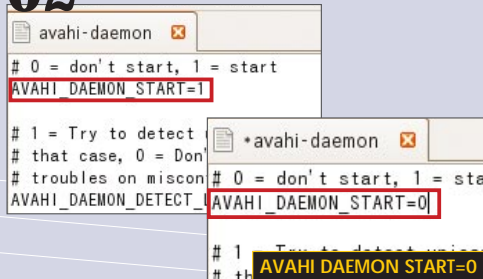
まずは設定ファイルを開くため、上のコマンドを入力しよう

02 設定ファイルを変更して保存

```
# 0 = don't start, 1 = start
AVAHI_DAEMON_START=1

# 1 = Try to detect
# that case, 0 = Don'
# troubles on miscon
AVAHI_DAEMON_DETECT_
```

```
# 0 = don't start, 1 = sta
AVAHI_DAEMON_START=0
```

AVAHI DAEMON START=0

エディタが起動するので、画面中の「AVAHI DAEMON START=1」を「AVAHI DAEMON START=0」に変更すること。変更したら保存して終了しよう。

IPv6を停止

つぎは同じく標準でオンになっている「IPv6」の設定を変更して停止してしまおう。将来的には必要になるであろうIPv6だが、今のところはまだそのような状況は少ない。思い切ってサポートを切ってしまってOKだ。

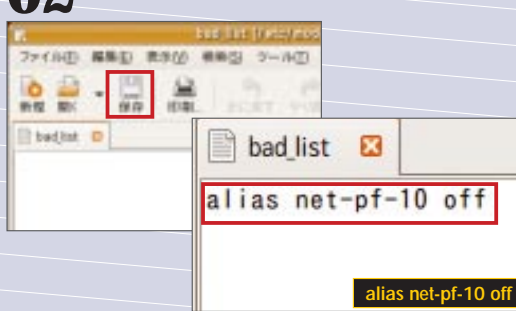
IPv6とは

IPアドレスは、現在4通りの数字で表わされている（192.168.1.1など）。しかし、この表し方では現在のネットワークに参加するマシンの数に対応しきれなくなってきているので、これを128bitの長いものに変更してネットワークに対応させようというものだ。

01 設定ファイルを開く

sudo gedit /etc/modprob.d/bad_list

上記のコマンドを端末から実行して、設定ファイルを開こう。

02 設定ファイルに入力して保存

開いた設定ファイルは空白の状態となっている。そこに「alias net-pf-10 off」と記述して保存しよう。

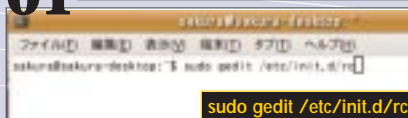
起動処理を並列実行

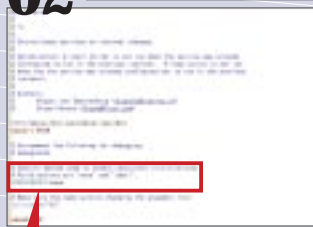
最近のPCはデュアルコアなどのマルチコアになっているがUbuntuの標準の起動処理では1CPUでしか動作しない。これを変更してマルチコアに対応しよう。

古いパソコンの人は注意

当然の話だが、CPUがシングルコアの場合は効果がないので注意だ。

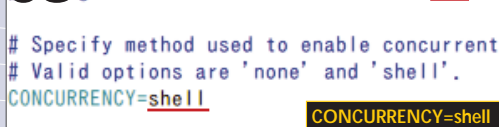
01 設定ファイルを開く

sudo gedit /etc/init.d/rc

「sudo gedit /etc/init.d/rc」と端末に入力して実行しよう。

02 設定ファイルから該当箇所を探す

開かれた設定ファイルの中から、「CONCURRENCY」という項目を見つけよう。ちなみにこの画面内では24行目付近に該当の項目が見つかった。

03 該当箇所を変更する

```
# Specify method used to enable concurrent
# Valid options are 'none' and 'shell'.
CONCURRENCY=shell
```

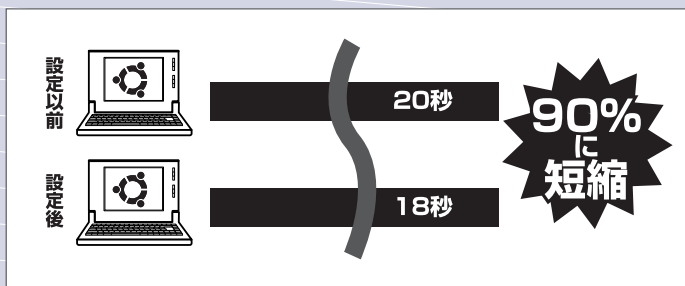
CONCURRENCY=shell

該当箇所を見つけたら、「shell」と記述を変更して保存する。

04 該当箇所を変更する

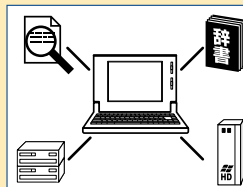
sudo mv /etc/rc2.d/S12hal /etc/rc.d/S13hal

そのまま起動するとパソコンがおかしくなるので、「sudo mv /etc/rc2.d/S12hal /etc/rc2.d/S13hal」を実行する。

起動時間を確認

全ての設定が終わったらパソコンを再起動しよう。Boot chartをインストールしてあれば「/var/log/bootchart」に起動時間を記録したグラフが保存されているはずだ。そこから高速化の効果を確かめてみよう。ちなみに筆者の環境では初期状態では20秒かかっていた起動時間が18秒と2秒短縮できた。

僕らのPCライフを密かに支える縁の下の便利ソフトたち。使ったが最後、以前の生活に戻れないこと請け合いだ!

ファイルやハードディスク管理に役立つツールがたくさん

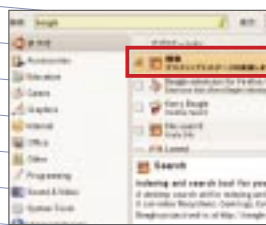
Ubuntuであろうと、パソコンを操作する以上ファイルの管理は必要な動作のひとつとなってくる。そこで、こうした動作を快適に行うためのツールをインストールしていこう。

Utility 01 どこに保存したか忘れたファイルも一発で検索可能「beagle」 File Seek

beagle
作者名：Novell inc.
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

「beagle」を使えばGoogleデスクトップやMacに搭載されている「Spotlight」のようなデスクトップ検索が行える。ファイル名だけではなく、テキストやメールの中身などにも検索をかけてくれるぞ。検索を制するものは全てを制するのだ!

デスクトップ検索の仕組み

あらかじめHDDの内容をインデックスファイルとして保持しておく事で、効率を大幅に向上させるのがデスクトップ検索の仕組みだ。

インストール

インストールはお馴染み「アプリケーション」の「追加と削除」メニューからだ。「検索」にチェックを入れて「適用」をクリックしよう。

インストールが終わったら、マシンを再起動しよう。検索デーモンプログラムが自動的に起動するぞ

使い方

01 起動

検索クライアントの起動は「アクセサリ」→「検索」をクリック。

02 検索開始

ボックスに検索したい語句を入力し、「検索」ボタンを押す。ヒントの例文はなぜか「夏目漱石」。

03 検索条件設定

デフォルトでは自分のホームディレクトリ下しか検索しない。新たに追加する場合は「デスクトップ検索の設定」→「インデックスの作成」タブで設定しよう。

04 検索結果画面

「logo」で検索すると先ほど追加したディレクトリからUbuntuのロゴがみつかった。読み出したいファイルを一発で検索することができるぞ。

Utility 02 ハードディスクの内を分割して空き領域を有効に活用!! Partition Editor

QTParted
作者名：Vanni Brutto
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

ハードディスクは「パーティション」という領域を作成して初めて使用できる。このパーティションを操作するのが「QTParted」だ。新しいパーティションを作成したり、既存のパーティションのサイズを自由に変更できるというスグレモノだ。

インストール

01 追加と削除メニュー

インストールはやはり「アプリケーション」→「追加と削除」から。「QTParted」と検索すれば現れる。

02 初期設定

このまま起動すると権限関係のエラーでデバイスを認識しない。そこで、起動メニューを書き換える事でこの問題を回避できるぞ。

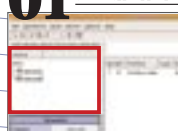
```
gksudo gedit /usr/share/applications/qtparted.desktop
```

コマンドを端末に入力しエディタを開こう。「Exec=qtparted」を「Exec=gksudo qtparted」に書き換えよう。

```
[Desktop Entry]
Exec=gksudo qtparted
Name=QTParted
```

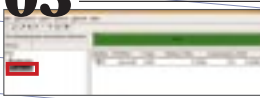
使い方

上の図のとおり、パーティションを分割すれば、OSとそれ以外のデータを分けて管理することができる。WindowsのHDDを分割して、Ubuntuの領域を確保することも可能だ。なお、データが消えてしまう危険性はゼロではないので、**バックアップはしっかりとっておこう!**

01 起動画面を確認

書き換えが終わったら起動してみよう。「アプリケーション」→「システムツール」→「QTParted」でOKだ。そして無事に見えるデバイスが二つ。これは環境によって変わるぞ。

02 ドライブの状態を確認

左のツリーからOSをインストールしている「sda」を選択した画面。OSのインストール時には何も指定しなかったが、スワップとして拡張領域が自動的に割り当てられている事がわかる。

03 パーティションを操作

「sdb」を選び「FAT32」のボリュームを作成。ちなみにこの時点ではディスクは空の状態だ。

04 ボリュームを作成

領域を分割して、変更を確定すると新たなパーティションが作成される。これでドライブが二つに分割できた。

新しいドライブができた

03 Utility 定義ファイルを登録して より正しい意味を表示する Transrator

StarDict
作者名：Hu Zheng
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

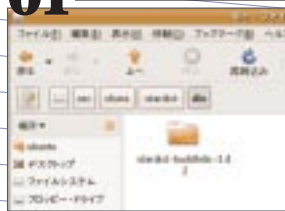
英語のWebページがよくわからんという人にオススメなのが「StarDict」。辞書なしでも単語を選択するだけで翻訳してくれる。辞書ファイルも大量に公開されているぞ。

インストール

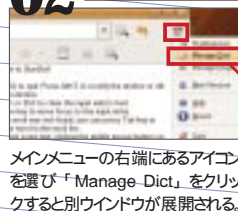
インストールはいつもどおり、「アプリケーション」の「追加と削除」から。

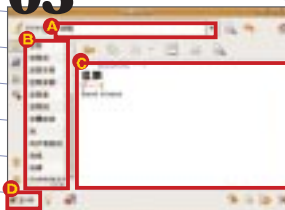
まずは辞書ファイルを入手しよう。ファイルは「http://stardict.sourceforge.net」にあるアーカイブをダウンロードすることで入手できる。

使い方

01 辞書ファイルの移動&起動

ダウンロード後、ダブルクリックして開くと解凍ツールが立ち上がる。"/usr/share/stardict/dic"の下にフォルダごと展開しよう。「アプリケーション」→「アクセサリ」→「StarDict」で起動する。

02 辞書ファイルの選択

メインメニューの右端にあるアイコンを選び「Manage Dict」をクリックすると別ウインドウが展開される。

先ほど展開した辞書が見えるはずだ。チェックを入れて有効にしよう。

03 検索する

実際の検索画面。画面上のボックスAに単語を入力すると、候補一覧がBのボックスに表示される。そしてBから単語を選ぶと、その意味がCに表示されるという仕組みだ。また、Dの「Scan」にチェックを入れることで自動翻訳が可能になる。

04 Utility NTFS領域の読み書き可能にして Windowsのデータを修正可能に!! File Access

ntfs-config
作者名：Mertens Florent
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

Windowsのデータを Linuxでも使いたいときに、NTFSパーティションを読み書きするためのソフトが「ntfs-config」だ。

Windowsとの共存が容易に!!

NTFSへの読み書きを可能にすることでWindowsのHDD内にあるデータを自由に扱えるようになるのだ。

インストール

インストールは「アプリケーションの追加と削除」から行える。また「アプリケーション」→「システムツール」で「ntfs-config」の設定ができる。

使い方

01 マウントの設定

OSと同じデバイスのディスクをマウントする場合は、ボックスにチェックを入れてOKを押す。その他の場合は右の手順へ。

自動的に認識したディスクデバイスに名前を入れる。ここではdatadiskとした。

02 ファイルの読み出し

これでWindows側で使っているNTFSパーティションへの書き込みが可能に。もちろん読み出しもできる。

これでファイルの再生が可能になった。ムービーのシークも問題なく行えるぞ。

05 Utility ソフトの起動だけでなくブラウザとの連動や 簡単な計算まで可能な高機能ランチャ Launcher

Katapult
作者名：Katapult development team
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

ソフトを追加し過ぎてメニューが使いづらいときは、これがオススメ。ソフトを検索して直接起動できるぞ。Alt+Spaceで検索開始だ。

検索ワード：google○○○

入力待ち画面でgoogleと入力し、続けてキーワードを入れてEnterを押すとブラウザが起動しググってくれる。

検索ワード：プログラム名

プログラム名を入力し、Enterを押すと当該プログラムが起動できる。

検索ワード：97×85

計算式を入力すると、計算結果を表示してくれる。logやexpなんていう関数も使えたりする。ちょっとした計算に便利だ。

インストール&起動

インストールはアプリケーションの追加と削除からだ。

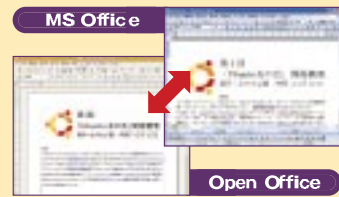
「アプリケーション」→「アクセサリ」→「Katapult」で常駐プログラムが起動。アイコンを右クリックで各種設定が行えるぞ。

設定方法

設定画面ではショートカットや各機能のトリガとなる文字列を決める。スキンもかえられるぞ。
Aツリーを選択して、各項目の設定を変更できる。
B何も操作しないときにウインドウが消える時間を設定。
C検索ワードが見つからなかった場合の挙動を選択できる。

Ubuntuには使えるオフィススイートが大量。特にOpenOffice.orgはマイクロソフトOfficeとの互換性もバッチリだ

OpenOfficeを始めとして各種のソフトがそろう

仕事の際にはMS Officeを使うという人も多いだろう。OpenOfficeで作成した文章は問題なく見ることができるぞ。

01 Office 日常の作業に十分使える オープンソースのオフィススイート Office Suite

OpenOffice.org

作者名：OpenOffice.org
インストール方法：デフォルトでインストール済み

もはや定番中の定番オフィスソフトである「OpenOffice.org」。Ubuntuでもデフォルトで入っているぞ。また最近のアップデートでOpenOfficeは拡張機能のインストールが可能となったぞ。

起動

「アプリケーション」→「オフィス」の中に入っている。

Outlookとの対応

OpenOfficeにはOutlookに対応するものは無い。標準のメーラーで代用可能なのでそれで対応しよう。

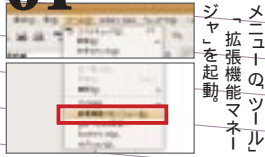
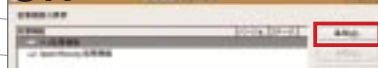
OpenOffice.org Word Processor
ワープロつまりWordのかわりになるものがWriter。

OpenOffice.org Spread Sheet
Excelに替わるソフトがSpread Sheet。一部のVBAなどは動作しない。

OpenOffice.org Presentation
Power Pointのようにプレゼン資料を作るソフトがPresentation。

拡張機能のインストール方法

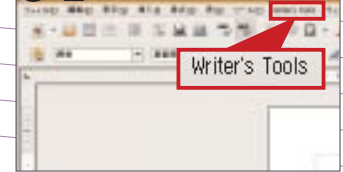
最新のOpenOfficeは翻訳やテンプレートなどの拡張機能に対応していて、自分の好きな機能をインストールすることができるようになっている。早速試してみよう。

01 設定ツールの起動

メニューの「ツール」→「拡張機能マネージャ」を起動。

02 「追加」をクリック

拡張機能を追加するために「追加」をクリック

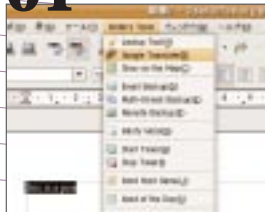
03 拡張機能の指定

インストールしたい拡張機能を選択。「.oxt」となっているファイルが拡張機能だ。

04 追加完了

OpenOfficeを再起動するとメニューに拡張機能が追加されている。

OpenOfficeの拡張機能「writer's tools」

様々な拡張機能の中から「writer's tools」を紹介する。これはWord Processorの機能を強化する便利なプラグインなで、多くの機能があるが、その中でも翻訳機能が使非常に使いやすいぞ。

01 文を指定して起動

翻訳したい文を選択して「Google Translate」を実行。

02 翻訳のダイアログ

翻訳のダイアログがでる。翻訳元と翻訳先の設定に注意しよう。

03 ブラウザに結果が表示

ブラウザが自動で起動して翻訳結果を表示してくれる。

マウスだけで訳文が表示された

02 Office OpenOfficeよりも手軽に使える 軽量ワープロソフト Word Processor

Abiword

作者名：The AbiWord Team
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

軽量のワープロツールが「Abiword」シンプルな機能しか提供しないが十分使えるぞ。OpenOfficeを起動するまでもない文章を書く場合などに重宝するだろう。

インストール方法

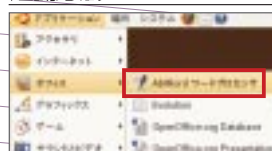
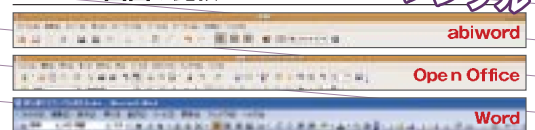
本体は、通常通り「追加と削除」からインストールできる。

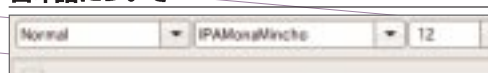
基本画面とOffice／OpenOffice.orgとの比較

起動方法

「アプリケーション」→「オフィス」→「Abiword」で起動。

メニュー画面の比較

シンプル

abiwordのメニュー画面。Wordなどと同様に使うことが可能だ。

日本語について

フォントの設定が英語になっているのでメニューからフォントを「IPAMincho」などに変更して使うこと。

その他のオススメオフィス系ソフトウェア

ココではさらにUbuntuで使えるオススメのオフィス系ソフトを紹介していく。作図ツールやWindows用の電子辞書をUbuntuで使用可能にするソフトなど、これらのソフトを上手に活用できれば、有料のソフトをWindowsで使わなくても、Ubuntuだけですべての作業をこなす事も可能かもしれない。

Office 03 プレゼンテーションやレポート用など図を書くときにはこのツール Drawing Figures

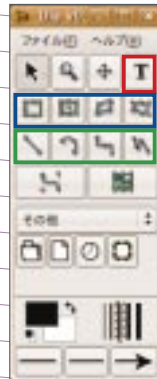
Dia
作者名：Dia developers
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

「Dia」はダイアグラムとよばれる図を書くためのソフトウエアだ。プレゼンやレポートで説明のための図はこれで完璧といってよいほど出来がよいぞ。

インストール方法

「アプリケーションの追加と削除」から行なう。「Dia」で検索をかけてインストールしよう。

使い方

「アプリケーション」→「グラフィックス」→「Dia」で起動。

ツールバーで必要な図形を選択してメインウィンドウに描画する。

●ツールバーの赤の枠で囲んだ「T」の形をしたツールで文字を書くことが可能。
●ツールバーの青の枠で囲んだツールは基本的な図形（四角や丸）を描くことが出来る。
●ツールバーの緑の枠で囲んだツールは図形同士をつなぐ線を描くことが出来る。

このような画像もすぐに作れるぞ。

Office 04 Windows用の電子辞書データをUbuntuで使用可能に Dictionary

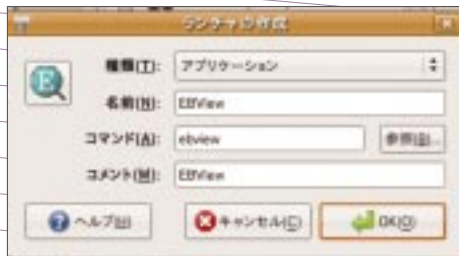
EBview
作者名：須藤賢一
インストール方法：デフォルトでインストール済み

Windowsで電子辞書を使っていて、Linuxでもそのデータを流用したいという人は多いだろう。そんなときは、「EBView」を使うと電子辞書のデータを読みこんで使うことが可能になるぞ。インストールは標準でされているのだが、メニューには登録されていないので追加しよう。

メニューに追加

01 メニューから展開

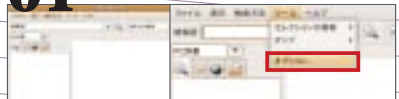
「システム」→「設定」→「メインメニュー」を起動。

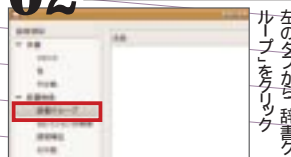
02 ウインドウから新規作成

「アプリケーション」メニューから「アクセサリ」を選択。画面右から「新しいアイテム」をクリックして上記の内容でアイテムを作成。

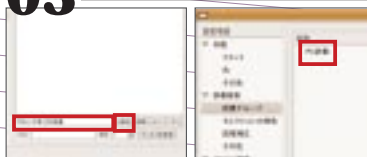
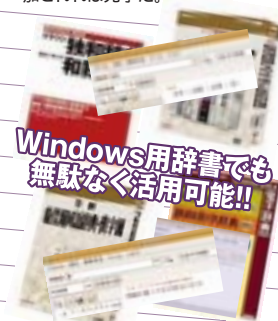
03 メニューに追加

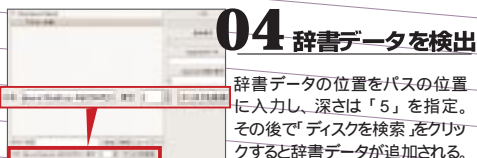
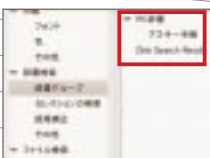
「アプリケーション」メニューに追加されれば完了だ。

使い方

01 メニューからウインドウを開く

ソフトを先ほどのメニューから起動したらまずは、所有の辞書データを登録する必要がある。「ツール」→「オプション」を開く。

02 辞書グループに移動

左のタブから、辞書グループ」をクリック

03 グループを追加

下のグループ名ボックス内に適当な名前を入力したら、右にある「追加」をクリック。中央のウインドウに追加した名称が表示される。ここでは「PC辞書」を追加した。

Windows用辞書でも無駄なく活用可能!!

04 辞書データを検出

辞書データの位置をパスの位置に入力し、深さは「5」を指定。その後で「ディスクを検索」をクリックすると辞書データが追加される。

05 辞書データを検出

先程追加したグループに検索結果の辞書を移動。これで辞書を使う準備が完了。

06 検索

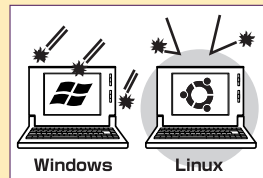
左上のボックスに検索したい語を入力。今回はPC用の辞書を追加したので右下のボックスに単語の意味が表示された。

Ubuntuの守りは万全!!

セキュリティ

LinuxはWindowsに比べウイルスやスパイウェアの数は少ないが、油断は大敵。頼りになるセキュリティソフトを紹介しよう

よりセキュアな環境を実現

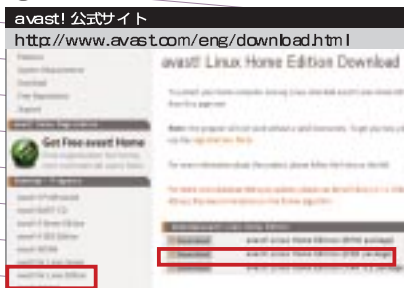
オープンソースで開発されているLinuxは、セキュリティに対しても非常に高い能力を持つ。Windowsに比べ自由な開発環境だからこそ、迅速で丁寧な対応が可能なのだ。

Security 01 商用アンチウイルスのフリー版でウイルス検出能力も上々 Anti-Virus

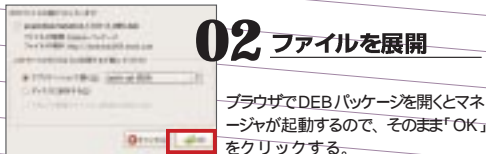
avast!
作者名：ALWIL Software
インストール方法：debパッケージから

Linux対応で、かつフリーのアンチウィルスソフトというと数は限られてくる。その貴重なソフトのひとつが「avast!」だ。機能はウィルススキャンのみだが、ファイアウォール機能は他のソフトで提供されており問題はない。レジストレーション作業が必要だが、手間はほんの少しなので頑張ってみよう。

インストール

01 ソフトダウンロード

avast! 公式サイト
http://www.avast.com/eng/download.html

まずパッケージを公式サイトから入手する。「avast! for Linux Home Edition」のDEBパッケージだ。

02 ファイルを展開

ブラウザでDEBパッケージを開くとマネージャが起動するので、そのまま「OK」をクリックする。

03 インストール開始

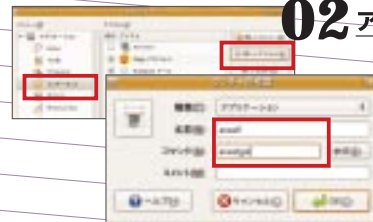
「パッケージのインストール」をクリックすれば、ソフトのインストールが開始されるので、あとは待つだけだ。

GUI設定

01 メニュー設定

アプリケーションメニューを「右クリック」して、ランチャメニューの設定をするぞ。

02 アイテム追加

左のツリーで「インターネット」を選択し、新しいアイテムをクリック。「avastgui」というGUIフロントエンドを登録する。

03 本体を起動する

「アプリケーション」メニューの「インターネット」項目に「avast!」が追加されているので、ここから本体を起動しよう。

この画面が開いたら、まず「Click here～」から公式サイトを開きユーザー登録をする。するとレジストキーが送られてくるので上図のとおりにキーをそのままコピーしよう。

上アイコンエリア
「Update database」をクリックすると、ウィルス情報を更新。

フォルダ選択エリア
ここで、スキャンしたいフォルダを選択しよう。

スキャンタイプエリア
スキャン速度など、スキャンの方法を選ぶことができる。

スキャンエリア
「Start scan」をクリックすれば、ウイルススキャン開始だ。

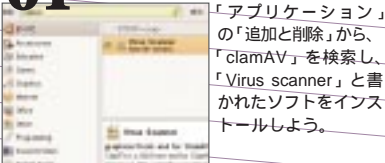
信頼のメーカー製

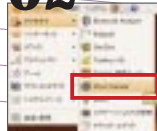
Security 02 オープンソースで開発されているアンチウイルスだが常駐可能で機能は本格的 Anti-Virus

常駐アンチウイルス

clamAV
作者名：Tomasz Kojm
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

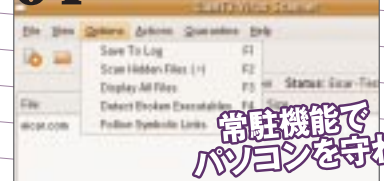
フリーのアンチウイルスソフト第2弾として「clamAV」を紹介しよう。リポジトリからインストールするだけあって、インターフェースもUbuntuと何となく似ている。タスクスケジューラ機能を使えば常駐も可能だ。

01 インストール

「アプリケーション」の「追加と削除」から、「clamAV」を検索し、「Virus scanner」と書かれたソフトをインストールしよう。

02 起動

「アプリケーション」→「アクセサリ」→「Virus Scanner」で起動できる。

03 ウイルスをスキャン

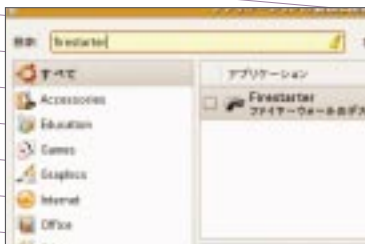
画像は「eicar」という検証用のウイルスファイルを発見したところ。見てわかる通り非常にシンプルなUIだ。しかし次に示すように、破損した実行ファイルの検出やシンボリックリンクを辿るなどの機能も備えているぞ。

04 オプション機能

検索時のオプションを指定できる。上から、「ログを残す」「隠しファイルを検索する」「全てのファイルを表示する」「破損した実行ファイルを検出する」「シンボリックリンクを辿る」となっている。

03 Security GUIベースで操作可能な新定番ファイアウォールソフト Firewall

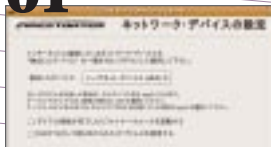
Firestarter
作者名：Tomas Junnonen
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

いわゆるファイアウォール機能を提供してくれるのが「Firestarter」だ。Linuxには「ipfilter」というファイアウォールソフト（コレ以外の機能もあるのだが）が付属しているが、テキストベースで設定を行うので結構面倒。その点、FirestarterはGUIベースで設定や通信ログを見ることができるぞ。

インストール

システム管理ソフトであるFirestarterもアプリケーションの追加と削除からインストールできる。

「システム」→「システム管理」→「Firestarter」で起動するぞ。

設定

01 ネットワークデバイス設定

初回起動時には設定ウィザードが立ち上がる。まずネットワークデバイスがキチンと認識されているか確認しよう。

02 NAT機能設定

NAT機能を使うか否かの質問だ。共有を使わないなら必要ない。使用する場合はチェックを入れよう。

03 設定完了

初期設定はこれで完了だ。これからは常時ファイアウォールが稼働することになるぞ。

使い方

ファイアウォールの起動/通信のフィルタリングは、受信止操作や、ネットワーク受信/送信ごとに、サービスの状況などを監視できる。

不正アクセスを防げ!!

通信のフィルタリングは、受信/送信ごとにサービスかホスト単位での制限になる。またデフォルトでの通過許可/拒否の設定もできる。これらをうまく組み合わせてフィルタを作成しよう。

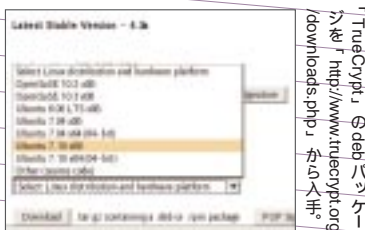
詳細設定ではICMPパケットの応答制限もできる。

04 Security ファイルやドライブを暗号化 重要なファイルもしっかり守れる Hide HDD

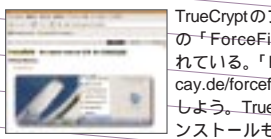
TrueCrypt
作者名：TrueCrypt Foundation
インストール方法：debパッケージから

Forcefield
作者名：Oliver Ripka
インストール方法：debパッケージから

人に見せたくないファイルを隠すための涙ぐましい努力も、最近の優秀な検索ソフトの前では全くの無力。そこで、高強度な暗号化を施した仮想ディスクを作成してくれるソフトを紹介しよう。

インストール

「TrueCrypt」のdebパッケージを「http://www.truecrypt.org/downloads.php」から入手。

ダウンロードしたアーカイブをダブルクリックすると、こちらの画面が表示されるので、「パッケージのインストール」を選択する。

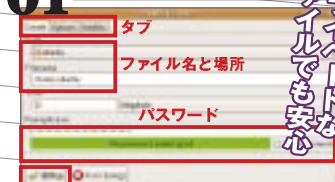
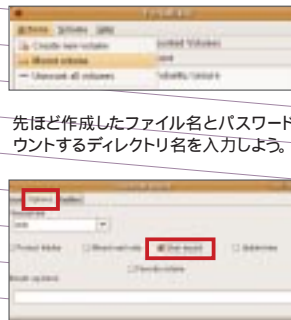
ForceField導入&起動

TrueCryptのフロントエンドの「ForceField」が配布されている。「http://bockcay.de/forcefield」から入手しよう。TrueCrypt同様にインストールも行う。

01 Truecryptを起動

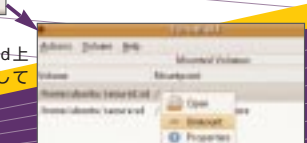
インストールが終わったら起動してみよう。「アプリケーション」から「アクセサリ」を選び「ForceField」で立ち上がるはず。

使い方

01 ファイルの暗号化

プライベートなファイルでも安心

「Actions」→「Create～」をクリックすると新しい暗号化ファイルシステムの作成ができる。暗号化方式やキーファイルの設定もできるが、とりあえずデフォルトで問題ない。ファイル名とパスワードは好きなものを設定しよう。

暗号化ファイルシステムをマウントするときは「Actions」→「Mount～」をクリックする。

先ほど作成したファイル名とパスワード、マウントするディレクトリ名を入力しよう。

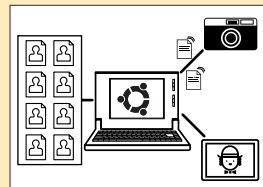
「Options」タブで「Usermount」にチェックを入れよう。ユーザー権限で読み書きできるようになる。

オプションアンマウントもForceField上で行う。ボリュームを右クリックして「Unmount」を選択しよう。

閲覧・管理
なんでも可能!!

画像ビューワ Graphic

Linuxには画像管理ツールは大量に存在する。今回はインストールが簡単でしかも使いやすいものを集めてみたぞ

「gThumb」で手軽に画像閲覧

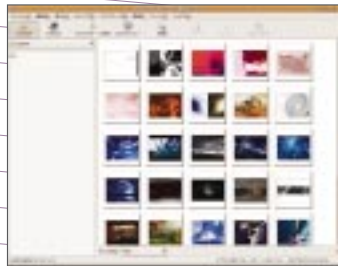
「gThumb」を使うとフォルダ単位で画像を簡単に確認できる。デジカメをPCで管理している人もUbuntuでも「gtkam」や「F-spot」を使って写真を管理することができるぞ。

Graphic 01 画像をフォルダ単位でサムネイル表示 手軽に観覧ができる Viewer

gThumb
作者名：Paolo Bacchilega
インストール方法：デフォルトでインストール済み

画像を管理したいときや連続で閲覧するといった用途に便利なのが「gThumb」だ。フォルダ内部の画像をサムネイルで一望することができ、スライドショーやフォーマット変換といった便利な機能も備えている。画像の切り抜きや、色度の変更といった簡単な編集も行うこともできるぞ。

起動方法

本体はデフォルトでインストールされているので、すぐに使える。起動は「アプリケーション」メニューの「グラフィックス」から行なう。

起動画面

gThumb起動画面。左側で選択したフォルダの画像一覧が右側に表示される。

画像のプレビュー

サムネイルをダブルクリックすると拡大して見ることができるぞ。

メニューの「画像」から簡単な編集を行なうことも可能だ。

Graphic 02 画像にタグを付加して管理 大量の画像を管理するときに便利 Viewer/Filer

F-Spot
作者名：Novell
インストール方法：デフォルトでインストール済み

googleの「picasa」のように写真をタグを付けて管理することができる画像ビューワが「F-Spot」だ。簡単な編集を行うこともできる上、編集した写真は後から編集前のオリジナルの状態へ戻すこともできる。「Flickr」や「Picasa Web Album」などへ写真をエクスポートもできるぞ。

起動

「アプリケーション」→「グラフィックス」→「F-Spot～」から起動。

起動

F-spotを起動するとフォルダを選択する画面になる。ここで選択したフォルダの写真がライブラリに追加される。

F-spotのメインウィンドウ。追加写真はこのウィンドウで管理する。左側にあるタグで右の写真を管理することができる。

画像のプレビュー

各写真にはタグをつけることができる。これを使って整理していくことができる。

Graphic 03 デジカメ→パソコンへの画像の転送が簡単にできる Photo Transport

gtkam
作者名：gPhoto team
インストール方法：アプリケーションの追加と削除から

「gtkam」はデジタルカメラの画像データをパソコンに転送するソフトウエアだ。デジタルカメラ内のメモリーに保存されている写真を取り出すことができる。gtkamの画像取り込みに対応しているデジタルカメラは500機種以上だ。

インストールと起動

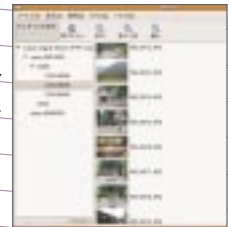
「追加と削除」から「gtkam」で検索してインストールしよう。「アプリケーション」→「グラフィックス」に追加される。

使い方

カメラをパソコンに接続し、検出するとメイン画面になる。画面左側でフォルダを選択し、右側のフォトデータから写真を転送しよう。

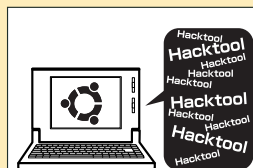
対応機種について

「http://www.gphoto.org/proj/libgphoto2/support.php」に対応しているデジカメの機種リストがあるので参考にしよう。

扱いには
十分注意

ハッキングツール

良いも悪いも使う人間次第!! というわけで、ここではハッキングツールを紹介。くれぐれも悪用はしないように!!

Windowsを遥かに凌駕するツールの量と質

オープンソースということが世界中のハッカー達を刺激するのか、Linuxには Windowsとは比較にならないほどたくさんのハッキングツールが存在するぞ。

Linux でのハッキングツール

昔からWindows がLinux に勝てないジャンルのソフトに、Web やFTPといったサーバーソフトとハッキング系ツールがある。せっかくLinux OS を使うのだから、勉強だと思って、その特長でもある強力なハッキングツールについても知っておこう。今回はコマンド一発で簡単に動くものから、ちょっと設定が難しいものまで6本のソフトをとりあげている。さらに、それらのツールのなかにはプロのセキュリティ技術者が業務用として使うほど強力なものもある。そのため、実際に使う時は自分が管理している環境……、つまり、サーバーやネットワーク内でツールをぶん回して、不正アクセス禁止法等で逮捕されたり、巨額な損害賠償を請求される可能性の絶対にないところでのみ動かすよう、くれぐれも注意してほしい。悪用は絶対厳禁だ。ちなみに、これらのツールを悪用した結果について、本誌は一切責任をとれないのでくれぐれも自己責任で使用するようにしよう。

Hacking 01 サーバーに穴がないか調べてくれる脆弱性スキャナー「Nessus」

Nessus
作者名：Tenable Network Security
インストール方法：Synaptic から

ハッキングツールとは言ってみたものの、ココで紹介する脆弱性スキャナー「Nessus」はむしろセキュリティを守る側にも愛用されているツールなのだ。さて、その脆弱性スキャナーとはどんなものかというと、サーバなどのコンピュータに対して、擬似的な攻撃を仕掛けて、脆弱性を発見くれるツールなのだ。このツールを使って脆弱性が検出されたなら、ハッカーにとっても、脆弱性が丸わかりということなのだ。自分でサーバを立てている人は、外部から侵入されて踏み台に使われた挙げ句に、犯罪行為に使われていたなどということがないためにもスキャンを行なっておこう。もちろん逆の立場でのスキャンで他人のパソコンを調べることも可能といえば可能。だが、くれぐれも友達の立てているサーバの脆弱制を検出して、教えてやる程度にしておこう。あまり派手なことをすると、実際に捕まる可能性がある。自分のやっていることのリスクをきちんと理解した上で使おう。

Nessusのインストール

デフォルトのUbuntu にはNessusは導入されていないので、まずはソフトをインストールしなければならない。メニュから「システム」→「システム管理」→「Synaptic パッケージ・マネージャ」をクリックして、ソフトをダウンロードする準備を整えよう。Synapticパッケージ・マネージャが起動したら、検索ボタンを押して「nessus」と入力をしよう。Nessus をはじめ、関連するソフトウェアも検索結果に表示される。チェックする項目は「nessus」「nessus-plugins」、「nessusd」の3つ。これらのソフトにチェックを入れると、関連するソフトで必要なもの（libnessus2など）にも自動的にチェックがされる。あとは、普通のソフトのインストールと同様に「適用」のボタンを押せばOK。インストールが始まり、数分もすれば完了するだろう。

01 Synaptic を起動

「システム」→「システム管理」→「Synaptic パッケージ・マネージャ」をクリックして、Nessusをダウンロードする準備をしよう。

02 Nessusを検索

検索ボタンを押したら、ポップアップウインドウが立ち上がるので、「検索」の窓に「nessus」とタイプして、検索ボタンをクリック。

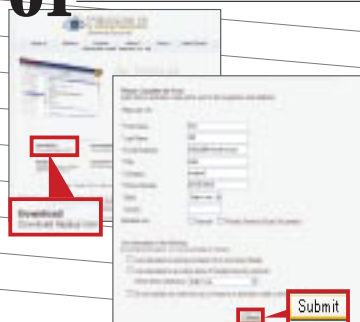
03 該当するものをインストール

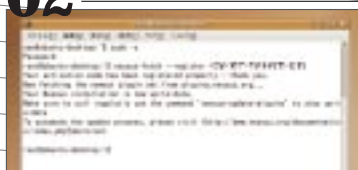
検索結果から関連するものにチェックを入れて、「適用」ボタンを押すだけでインストール完了する。Windowsもびっくりのお手軽さ。

アクティベーションとNessusサーバーの設定

Nessusは単純にインストールしただけでは利用できない。まずは公式サイトでメールアドレスを登録して、Nessusを使えるようにするためのレジストコードを手に入れなければならないのだ。登録方法はNessus公式サイトの「Download」→「Select a product～」から適当なモノを選び「Download」をクリック→ソフトフエアの許諾画面で「I accept」→「Please Complete the Form」の画面が出てくるので、*印がついている部分を記述し、「Submit」ボタンを押せばOKだ。しばらく経つと登録したアドレスに、「Nessus Plugin Feed」という件名でメールが来ているはずなので、「Your activation code for the Nessus plugin feed is ～」の後に書かれた、20個の数字が、Nessusのレジストコードとなるので、メモしておこう。それが終わったら今度は「GNOME端末」画面を立ち上げて、このページの説明を参考にNessusをアクティベートして、Nessuサーバーを立ち上げよう。この設定がいちばんやっかいな部分だが、注意してコマンドを打ち込んでいけば、誰でもできる作業なので、落ち着いて行おう。

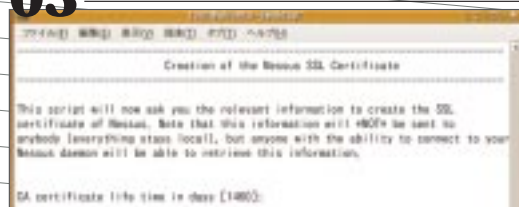
01 公式サイトにアクセス

URL●http://www.nessus.org/

Nessuの公式サイトの「Download」の先で「Debian」用を選択しよう。その後で、利用許諾に同意し、メールアドレスなどを登録してアクティベートコードを入手する必要があるぞ。

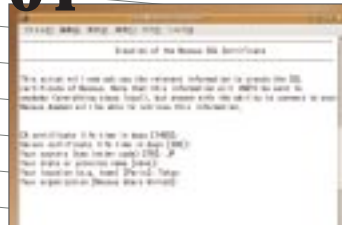
02 アクティベート

sudo -s

nessus-fetch -register アクティベートコード

「sudo -s」とタイプし、root権限になる。root@に変わったことを確認したら、「nessus-fetch --register アクティベートコード」を入力して、アクティベーションを完了させる。

03 SSL証明書の作成を開始

nessus-mkcert

次は証明書の作成だ。「nessus-mkcert」とタイプをすると上記の画面が出現するので「04」へ進もう。

04 証明書の作成

証明書の作成は対話形式になっており、住んでいる場所や会社などを聞かれる。が、わからない項目や答えたくない人はエンターキーを押してスキップしよう。

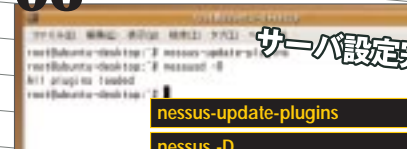
05 ダミー

nessus -adduser

続いて、ユーザー登録を行うコマンド「nessus -adduser」を入力。ログイン名やパスワードを聞いてくるので、設定したいIDとパスワードを入力しよう。入力した後は「Ctrl+D」ボタンを押して、内容を確認して「y」を入力。

06 ダミー

サーバ設定完了

nessus-update-plugins

nessus -D

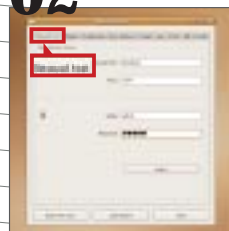
Nessusのプラグインをアップデートするコマンド「nessus-update-plugins」とタイプ。そして、Nessusサーバを起動させるため「nessud -D」と入力すれば準備完了だ。

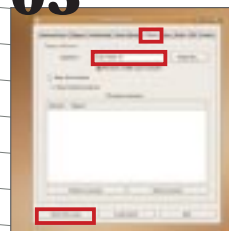
Nessusの使い方

Nessusのサーバ側の設定が終わったら、いよいよNessusクライアントを使って、サーバのスキャンをしてみよう。メニューバーの「アプリケーション」→「インターネット」→「Nessus」をクリックしたら、Nessusのクライアントが起動する。次に「Nessusd host」のタブを選択し、登録したメールアドレスに送られてきているはずのNessusユーザーのIDとパスを入力しログインし、「Target」タブを選ぼう。Targetの欄にスキャンしたいサーバーの名前をいれて、「Start the scan」を押せば脆弱性チェックが始まる。数分したら結果が表示されるはずだ。

01 ソフトを起動

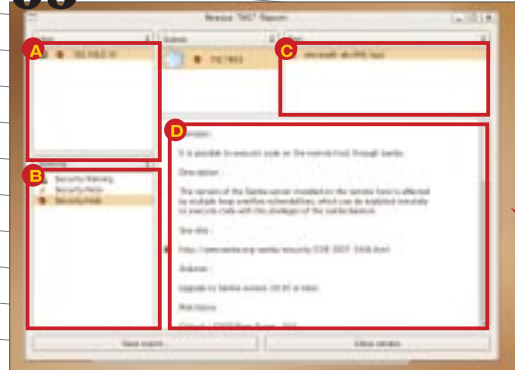
Nessusのクライアントを起動させよう。メニュ―から「インターネット」→「Nessus」をクリックするとNessusクライアントが立ち上がる。

02 必要事項を入力

Nessusサーバにログインするために、「Nessusd host」タブのログイン・パスワードの項目に先ほど設定しておいたログイン名とパスワードパスを入力する。

03 対象を選んでスキャン

「Target」タブを選び、調査をしたいサーバを設定しよう。やり方は「Target(s)」の欄に、サーバー名・IPを入力し、左下の「Start the scan」を押せばスキャンがはじまる。

04 ダミー

スキャン中はこのような画面になる。スキャンには時間がかかるので、コーヒーでも飲んで気長に待っておこう。スキャンが終わると、右のような結果が表示される。

05 ダミー

サーバの脆弱製が一目瞭然

A ターゲットとなったサーバ名。

B セキュリティ上の危険度を3段階に表示。ここではセキュリティホールが検出された。

C セキュリティ上危ないポート番号が表示される。

D 脆弱性の情報が表示される。詳しい対策方法や関連するURLもあわせて教えてくれる

コマンド一発でメールの内容からパスワードまで判明する！ Ubuntuで簡単に使えるネットワーク盗聴ツール Sniffing

dsniff
作者名：不明
インストール方法：Synapticから

「スニッファー」とは、ネットワーク上に流れるデータを盗聴するソフトウェアの総称だ。具体的にはLAN内で接続している他のパソコンがどのWebを閲覧しているか、どんなメールを受信しているかなどの情報を、こっそり見ることができる。「スニッファーがあれば、あの娘のメールデータがこっそり読めちゃう!?」と興奮してしまう人がいるかもしれないが、ちょっと落ち着いて欲しい。このスニッファーにも弱点がある。それは「リピーターハブ」（通称：馬鹿ハブ）というハブを使っているLANの環境だったらすぐにデータ盗聴ができるのだが、「スイッチングハブ」というハブだと簡単にデータを盗聴することはできない。そして、最近のLANのほとんどはスイッチングハブが利用されているので、セキュリティが心配な人でも一安心。だが、具体的なハッキングの方法を知るためにも、ここで紹介するツールを知っておくことは有益だ。インストールするのは「dsniff」というもののみだが、その中にはネットワークからIDやパスワードを抜き出すものからメールの内容を盗聴するツール。さらにはブラウザをシンクロさせて、対象のパソコンのブラウザが表示しているものと同じページをリアルタイムで表示するものまであるのだ。くれぐれも自分の管理下のネットワーク内で実験を行なおう。

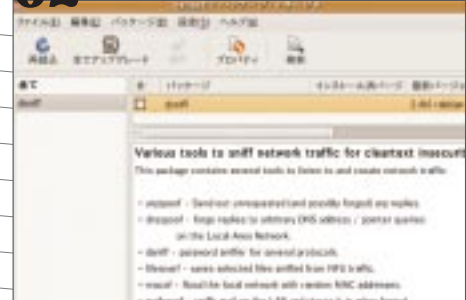
インストール

Ubuntuの「Synpatic パッケージ・マネージャー」を使えば、スニッフィング系のツール14種類を一括でインストールできる。

Nessusと同じように上のメニューバーから「システム」→「システム管理」→「Synaptic パッケージ・マネージャ」を選び、検索ボタンをクリック。出てきたウインドウに「dsniff」と入力し、検索すれば「dsniff」という名前のパッケージがヒットするはずだ。このパッケージにチェックを入れて、適用ボタンを押せば、スニッフィングツールのインストールは完了だ。

01 Dsniffを検索

「システム」→「システム管理」→「Synaptic パッケージ・マネージャ」と選択をしてパッケージマネージャを立ち上げる。検索ボタンを押して「dsniff」とタイプをしてソフトをサーチしよう。

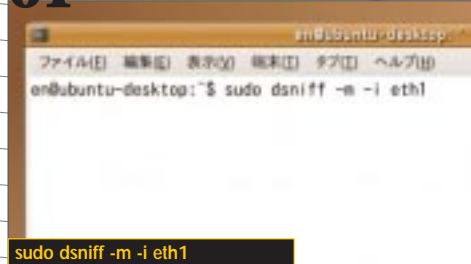
02 必要なものをインストール

dsniffのパッケージを導入することによっては、複数のスニッファーが同時にインストールされる。誌面の関係ですべては解説できないが、なかなか面白いツールが詰まっている

「dsniff」でデータ監視

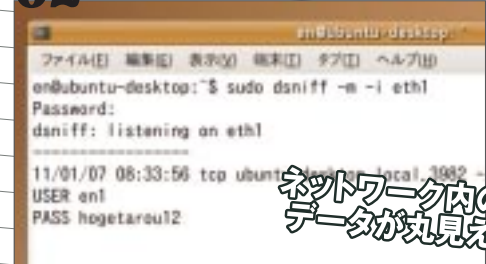
dsniff系のツールはターミナル内から操作をし、結果も端末内で表示される。コマンドをタイプして結果がでるので、ちょっとしたハッカー気分が味わえるぞ。まずはIDとパスワードを監視し、それらの情報がLAN内に流れたら、即座にそられのデータを収集する「dsniff」の使い方を紹介しよう。使い方は簡単で「sudo dsniff -m -i eth1」とタイプをするだけ。最初は画面に何も表示されないが、ひとたびIDとパスワードが流れると、それらを画面に表示するのだ。

01 ソフトを実行

```
en@ubuntu-desktop:~$ sudo dsniff -m -i eth1
```

sudo dsniff -m -i eth1

管理者権限で動かすために、sudoをつける
-i はNICを指定するオプションで、「-i eth1」でeth1を使ってスニッフィングという指定。

02 データが表示される

```
en@ubuntu-desktop:~$ sudo dsniff -m -i eth1
Password:
dsniff: listening on eth1
-----------------
11/01/07 08:33:56 tcp ubunt...
USER en1
PASS hogetarou12
```

ネットワーク内のデータが丸見え

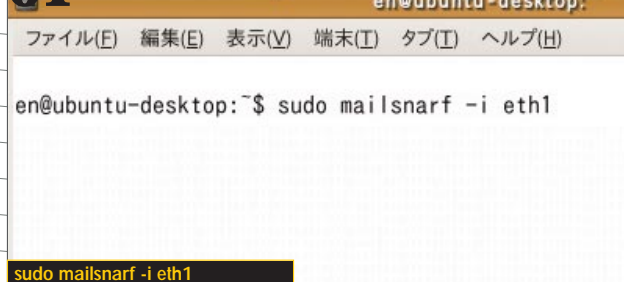
dsniffを起動させておくと、LAN内でIDとパスワードが流れた際に上記のように表示をしてくれる。ちなみに今回はメールのIDとパスワードが表示された。

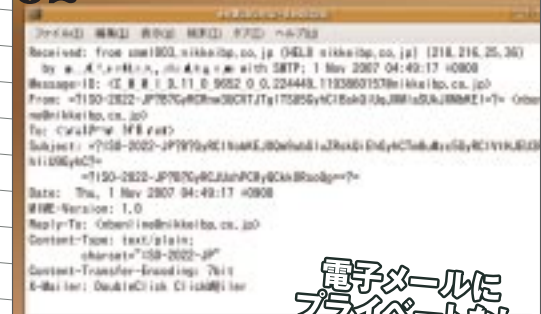
「mailsnarf」を使ってメールの内容を盗聴する

dsniffはIDとパスワードを狙ったスニッファーがだったが、「mailsnarf」は、メールの内容そのものをスニッフィングするツールだ。利用方法は「sudo mailsnarf -m -i eth1」とタイプするだけ。eth1はユーザーの環境によって違うので注意しよう（eth0、eth2の場合もある）。コマンドを実行してソフトを起動した後にネット内でメールの送受信が行われると、端末内にメールヘッダとともにメールのテキストが表示されるのだ。

01 mailsnarfを実行

```
en@ubuntu-desktop:~$ sudo mailsnarf -i eth1
```

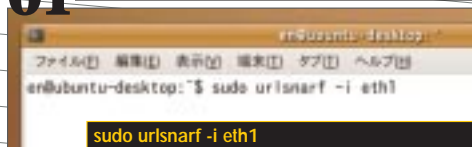
sudo mailsnarf -i eth1

管理者権限で動かすので、コマンドの最初にsudoをつけて「mailsnarf -i eth1」と入力。

02 メールが丸見え

スニッフィング最中に他のマシンでメールの受信が行われるとこのように表示される。メールヘッダも本文もばっちりに見られてしまう

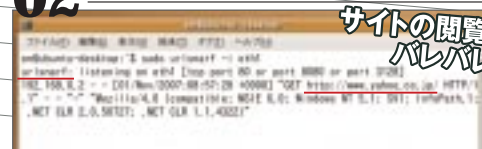
● どのページを閲覧したか調べる「urlsnaf」

「urlsnaf」はその名の通り、ネットワークワーク内に流れるURLを盗聴……つまり、他のユーザーがリアルタイムで閲覧しているURLをゲットすることができるツールだ。判明する情報はローカルのIPアドレスはもちろん、アクセス先、OSやブラウザ名までばっちりわかってしまう。エッチなサイトや怪しげなサイトを訪問しているのがリアルタイムでばれてしまう可能性があるぞ。

01 ソフトを起動

sudo urlsnarf -i eth1

sutoを使って管理権限で動かさないと、上手く作動しない。-i eth1でどのネットワークインタフェースを使うかオプション指定をする。

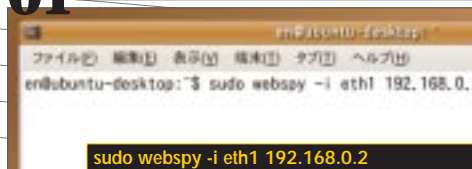
02 サイトの情報が丸見えに

サイトの閲覧情報がバレバレ!!

他のユーザがWebサイトを閲覧すると、このようにどのサイトにアクセスしたか一発で判明する。ローカルIPやリファラー情報もわかる。

● 「webspy」でリアルタイムにWeb盗聴

上で解説をした「urlsnaf」は他人がアクセスをしているURLがどんどん判明していくなかなか愉快なツールだ。これをさらにパワーアップしたのが、この「webspy」だ。ターゲットのマシンを決め、ブラウザーのFirefoxを立ち上げてwebspyを起動させる。すると、ターゲットがブラウジングするたびに、アクセス先のURLが端末内に表示され、Firefoxもターゲットが閲覧しているページに変化していく。

01 コマンドからIPアドレスを指定

sudo webspy -i eth1 192.168.0.2

まずは「-i eth1」で使用するネットワークインタフェースを設定する。その後ろにターゲットとなるIPを記述する

タノ他人の趣味がわかっちゃう!!

02 Webアクセスが監視できる

Webspyは必ずブラウザーも一緒に起動させておくこと。ターゲットがWebにアクセスする度に手元のブラウザーも同じページを表示する

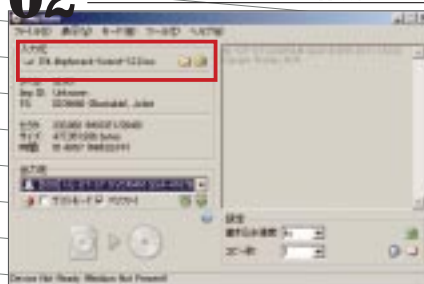
Hacking 03 自分のログインパスワードを忘れても安心!? Windowsのパスワードクラックlinuxツール「OphCrack」 OphCrack

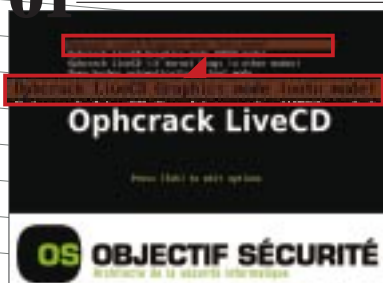
OphCrack
作者名：OBJECTIF SECURITE
インストール方法：サイトからダウンロード

OphCrackはWindowsのログインパスワードを判明させる恐ろしいパスクラックツールだ。特に1CD Linux化された「OphCrack Live CD」はとても強力だ。使い方は簡単でログインパスワードを知りたいPCにOphcrack Live CDをセットして、CD起動状態で電源をいれるだけ。マシンが動き出し、OphCrackが読み込まれ、ログインパスワードを解析していく。パスワードの長さや強度にもよるが、大抵5分から15分ぐらいでWindowsのIDとパスワードが判明してしまう。ログインパスワードをかけていても必ずしも安全ではないことが実感できるだろう。

01 ソフトをダウンロード

Ophcrackの公式サイト（http://ophcrack.sourceforge.net/）にアクセスをして、メニューにある「Download」をクリックし、ophcrack-livecd 1.2.2をダウンロードする。

02 ISOファイルからCD作成

落としたISOファイルを、PCから起動できるようにCDに焼く。一般的なライティングソフトからもISOファイルからのライティングは可能。Ubuntuから作成する場合には35ページで紹介している「K3b」を使おう。Windowsの場合には15ページで扱っている「ImgBurn」を使おう。両方とも入力元にOphcrackのisoファイルを指定し、出力先にドライブを選択すればディスクが完成するぞ。

01 CDをセットして起動

ライティングしたOphcrackのCDをパソコンに入れて、起動するとこのような起動画面が出現する。一番上の「auto mode」を選択しよう。

02 クラック中

Slaxのソフトなので、システム起動中はSlaxのロゴが画面に表示される。起動にはちょっと時間がかかるので、しばらく待とう。

03 パスワードが抜けた

ID	USERNAME/LMHASH	LMpasswd1	LMpasswd2	NTpasswd
500	Administrator	NOVA	E	nova
501	Guest	/EMPTY/		/EMPTY/
1000	HelpAssistant	....	7070128	Not found
1002	SUPPORT_388945a0	/EMPTY/		Not found

OSの起動が終わると、自動的にOphcrackが立ち上がり、WindowsのIDとパスワードをチェックしていく。数分から数十分後にパスワードが解析されているはずだ。

パスワードを忘れてもこれで安心!!